

科目名

# 外国語コミュニケーション

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／卒業必修》

担当者

村橋 哲也

実務経験

授業の概要

保育現場でよく使う単語や語句、表現を豊富に使い、より現場に則した対話練習や、園児および保護者への英語での対応演習を各週のトピックに合わせて行う。また、保育現場で役立つ英語を使った遊びや歌なども授業の中に織り交ぜて実施する。

到達目標

保育現場で役立つ英会話を保育英検2級程度の能力まで高める。

事前事後学習

学習予定範囲の単語や表現などを予め調べておく。出題されている設問の解答準備をしておく。授業後は学習したポイントを繰り返し復習し、確認テストなどに備える。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	
1	保育の英会話への第一歩	16	保育室の中
2	みなと保育園によろこそ!	17	園児の持ち物
3	時間と数	18	園庭の道具
4	地図と道案内	19	天気
5	クラスメイトとの出会い	20	園児の遊び
6	デイヴィーの登園と降園	21	感情と体調
7	保育者の仕事	22	ランチタイム
8	手を洗いましょう	23	ランチの献立
9	排泄に関する会話	24	連絡帳
10	けんか	25	身体の部位
11	けがと病気	26	救急処置
12	電話での対応	27	電話の対応
13	遠足	28	留守番電話
14	赤ちゃんのケア	29	年間行事予定
15	卒園	30	育児用品

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	50%	ディスカッション	
レポート	50%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	保育の英会話 Childcare English
参考文献・推薦図書	
関連のある授業科目	
資格等	幼稚園免許二種免許・保育士資格

科目名

# 体育実技

《1単位(実技)／幼児保育学科1年前期／卒業必修》

担当者

塩見一成

実務経験

授業の概要

学生同士や教員と学生間でコミュニケーションをはかりながら、様々な運動・スポーツ活動の面白さを探り、追求することを通して、安全で道理にかなう運動実践力を身につけることを目指す。

到達目標

- ①スポーツ教材に興味を持ち、意欲的に取り組むことができる。
- ②スポーツ教材の基本動作、スキル、戦術をゲームの中で実践できる。
- ③スポーツ教材のルールおよび審判法を理解し、ゲーム運営ができる。
- ④スポーツ教材の用器具の使用法および管理法を理解し、実践できる。

事前事後学習

授業では課題(実技テスト、レポート等)を出します。課題をクリアーするために考え、工夫すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	○
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	1	
2	バドミントンⅠ:基礎技術の習得、用語の理解	2	
3	バドミントンⅡ:基礎技術の習得、ルール理解	3	
4	バドミントンⅢ:ゲーム①	4	
5	バドミントンⅣ:ゲーム②	5	
6	バドミントンⅤ:ゲーム③	6	
7	バードゴルフⅠ:基礎技術の習得、用語の理解	7	
8	バードゴルフⅡ:基礎技術の習得、ルール理解	8	
9	バードゴルフⅢ:ラウンド①	9	
10	卓球Ⅰ:基礎技術の習得、用語の理解	10	
11	卓球Ⅱ:基礎技術の習得、ルール理解	11	
12	卓球Ⅲ:ゲーム①	12	
13	卓球Ⅳ:ゲーム②	13	
14	卓球Ⅴ:ゲーム③	14	
15	まとめ	15	

<b>授業外学習内容とその時間</b>	前回の授業内容を配布資料を含めた上で理解し、他者に説明できるようにしておく。 (目安時間:各回約2時間)		
<b>課題のフィードバック方法</b>	学生の習熟度や活動状況により、適宜教員から指導を行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	
レポート	20%	プレゼンテーション	
小テスト	30%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他	30%	その他	

<b>テキスト</b>	特になし(必要に応じて資料を配布します)
<b>参考文献・推薦図書</b>	「最新スポーツ百科」大修館書店
<b>関連のある授業科目</b>	体育講義
<b>資格等</b>	幼稚園免許二種免許・保育士資格

科目名

# 体育講義

《1単位(講義)／幼児保育学科1年後期／卒業必修》

担当者

塩見一成

実務経験

授業の概要

健康問題と生活環境の関係、健康維持・増進の方法、動作の巧みさについて学び、より豊かに健康的な生活を送るための知識と実践力を身につける。

到達目標

- ①現代社会における運動・スポーツ実践の重要性とその意義を述べることができる。
- ②ライフスタイルに応じた生涯スポーツの実践に関心を持つようになる。

事前事後学習

毎授業の前後に、必ず予習復習をすること。レポート提出あり。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	○
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション:授業の概要、受講上の心得など
2		2	動くとは
3		3	ライフスタイルと健康について
4		4	運動習慣と生活習慣病について
5		5	スポーツと安全
6		6	身体知とは
7		7	動作の巧みさについて
8		8	力やパワーについて
9		9	持久力を高める方法について
10		10	運動と骨の関係について
11		11	加齢による身体機能の変化と運動の関係
12		12	睡眠問題について
13		13	ストレスと運動について
14		14	子どもの身体活動不足、座位中心生活による影響
15		15	まとめ

授業外学習内容とその時間	前回の講義内容を配布資料を含めた上で理解し、他者に説明できるようにしておく。(目安時間:各回約2時間)
課題のフィードバック方法	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。

成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	30%	プレゼンテーション	有
小テスト	30%	スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	特になし(必要に応じて資料を配布します)
参考文献・推薦図書	「基礎から学ぶスポーツリテラシー」 高橋健男・大築清人 他 編 大修館書店
関連のある授業科目	体育実技
資格等	幼稚園免許二種免許・保育士資格

科目名

# 基礎ゼミ

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／卒業必修》

担当者

幼児保育学科教員

実務経験

授業の概要

「大学での学び方」「保育用語」「ゼミ別研究」「保育学生としての学び」においては、基礎学力を高め、自ら考え表現する方法を学ぶ。「地域ボランティア」は、地域清掃活動を行い、地域の環境の実態を知り、社会貢献を目指す。また「専門職ガイダンス」では、保育・教育分野に限らず、様々な領域の外部講師をお招きし、最新状況についてお話していただく。以上のような様々な演習を通して社会人・保育者としての資質を磨いていく。

到達目標

本演習では、大学生・保育者にとって必要な素養を身につける事を旨とし、学習・実習・就職活動に対する意識向上をはかる。

事前事後学習

授業教科書、資料などを授業前後にしっかり読み、学習に臨む。またゼミにおける課題について自分なりに情報収集・整理が求められる。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	○
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション・大学での学び①(ガイダンス)	16	観察実習オリエンテーション
2	大学での学び②(マナー・生活編)	17	観察実習
3	日本語文章スキルアップ①	18	観察実習まとめ(お礼状作成等)
4	日本語文章スキルアップ②	19	キャンパスライフ(共同企画②)
5	保育学生としての学び①(マナー)	20	地域ボランティア①(学内外清掃活動等)
6	ゼミ別研究・学びのスキルアップ①	21	保育用語Ⅲ
7	保育用語Ⅰ	22	ゼミ別研究・学びのスキルアップ⑤
8	保育学生としての学び②(マナー)	23	専門職ガイダンス②
9	ゼミ別研究・学びのスキルアップ②	24	保育用語Ⅳ
10	保育用語Ⅱ	25	保育学生としての学び③(言葉)
11	ゼミ別研究・学びのスキルアップ③	26	ゼミ別研究・学びのスキルアップ⑥
12	ゼミ別研究・学びのスキルアップ④	27	保育用語Ⅴ
13	専門職ガイダンス①	28	保育学生としての学び④(保育場面における気づき)
14	キャンパスライフ(共同企画①)	29	専門職ガイダンス③
15	学習のまとめ	30	学習のまとめ

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート	30%	プレゼンテーション	
小テスト	30%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他(課題等提出物)	20%	その他	

テキスト	適宜資料を配布する
参考文献・推薦図書	「大学生の日本語トレーニング」世界思想社 その他、適宜紹介する。
関連のある授業科目資格等	キャリアスタディ、卒業研究等

科目名

# 基礎音楽

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／卒業・保育士必修》【2クラス開講】

担当者

《基礎音楽全般》田邊裕子  
《ピアノ》赤峯美津子・関真惟子・松岡美羽・三浦栄子・山田倫子

実務経験

授業の概要

「保育表現技術」における「基礎音楽」の授業は、子どもの遊びや保育環境を豊かにするために必要な音楽表現に関する知識や技術を習得することを目標とする。  
感性豊かな保育者を育成するためには、様々な音楽に興味関心を持ち主体的に取り組む学びの姿勢も求められる。子どもの発達や保育の環境・内容について理解しながら、豊かな感性や創造性を養うための音楽表現の実践とその展開方法を学ぶ。音楽表現に必要な基礎的知識や技術を理解し習得しやすいよう、小人数編成の演習形式やピアノ個人レッスンを展開する。

到達目標

- ①子どもの歌や、ピアノ伴奏、弾き歌いなど基礎的な音楽表現技術を理解し習得する。
- ②歌やピアノ実技などの実践・活動に繋げる音楽表現の基礎的知識を習得し、読譜力を高める。

事前事後学習

週毎に示している課題曲の合格を目標とし、ピアノ練習等を毎日積み重ねることが基本である。また練習方法を随時工夫して人前での発表や実践の準備に取り組む。  
毎回の授業の復習をし、目標課題の達成に努力を怠らないこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	○
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	前期オリエンテーション・ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調1)	16	後期オリエンテーション・ピアノ奏法および楽譜の理解(ト長調3)
2	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調2/音符と休符1)	17	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調5/リズム5)
3	ピアノ奏法および楽譜の理解(ト長調1/リズム1)	18	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調6/音階と和音3)
4	ピアノ奏法および楽譜の理解(ト長調2/音符と休符2)	19	ピアノ奏法および楽譜の理解(ニ長調1/リズム6)
5	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調1/リズム2)	20	ピアノ奏法および楽譜の理解(ニ長調2/音階と和音4)
6	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調2/音階と和音1)	21	ピアノ奏法および楽譜の理解(ト長調4/リズム7)
7	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調3/リズム3)	22	ピアノ奏法および楽譜の理解(イ短調1/試演会)
8	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調4/試演会)	23	ピアノ奏法および楽譜の理解(イ短調2、ハ短調1/リズム8)
9	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調5/リズム4)	24	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ短調2/音階と和音5)
10	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調6/音階と和音2)	25	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調9/リズム9)
11	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調7、ハ長調3/記号・楽語)	26	ピアノ奏法および楽譜の理解(ニ長調3・小テスト)
12	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調8、ハ長調4/小テスト)	27	後期課題発表のための選曲と奏法1
13	前期課題発表のための選曲と奏法1	28	後期課題発表のための奏法2
14	前期課題発表のための奏法2(リハーサル)	29	後期課題発表のための奏法3(リハーサル)
15	前期のまとめと振り返り	30	後期のまとめと振り返り

<b>授業外学習内容とその時間</b>	レッスンにおいて、十分な練習がないまま受講することがあってはならない。空き時間等には、積極的に学内のピアノ練習室を利用するなどして、ピアノ練習を習慣づけることが肝要である。レッスンに備え毎日30分以上の練習を行い、レッスン後は各自担当教員の指導を念頭に置き、時間を置かず不合格曲の練習や新曲練習を繰り返し行うこと。長期休暇中においても同様に練習すること。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	個別のレッスンカルテを作成し、毎週のレッスン時において、担当教員が課題の進捗状況や演奏技術等を記入し確認する。また、試演会やリハーサルを行い、一人ひとりの演奏に対し教育的指摘を行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験	40%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	40%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子編著 樞歌書房、「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社、「幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社、その他、随時資料、楽譜を配布
<b>参考文献・推薦図書</b>	「保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト」編著：全国大学音楽教育学会九州地区学会、「おんがくのしくみ-歌って動いてつくってわかる音楽理論-」著者：今村恭子ほか その他適宜、授業中に紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	こどもと表現、保育内容【表現Ⅰ】、教育実習、保育実習など
<b>資格等</b>	保育士資格

科目名

# 保育者論

《2単位(講義)／幼児保育学科1年後期／保育士・幼免必修》

担当者

惟任泰裕

実務経験

授業の概要

直接的に幼児と関わる保育者の役割・専門性について、事例や職務内容から理解する。専門性が高度化するなかで、それら背景にある社会的期待や課題を知り、保育者の職業的意義について考えを深める。併せて組織内外での連携の重要性についても事例から検討する。保育者の制度的位置づけを確認し、専門職的成長はどのように起きうるのか、自己課題も含め考察する。

到達目標

- ・保育者の専門性と倫理を理解している。
- ・現代的な社会課題とそれに応じた保育者の役割を理解している。
- ・組織内、また保護者や地域社会との協働・連携について、その重要性を理解している。
- ・保育者の制度的位置づけについて理解している。
- ・保育者の専門職的成長を理解し、自己課題を把握している。

事前事後学習

- ・指定した文献やレジュメ・配布資料などを授業前後で読み、理解を深めていくこと。
- ・グループでの活動があるときには、事前・事後で活動に向けて準備・振り返りを行うこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	○
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	保育者の役割と倫理
3		3	保育者の専門性①子ども理解と養護・教育の一体
4		4	保育者の専門性②記録とふりかえり
5		5	保育者の専門性③子育て支援
6		6	保育と家族・地域の関係①モンスターペアレント
7		7	保育と家族・地域の関係②地域社会での保育
8		8	保育と家族・地域の関係④現代における子育て
9		9	保育者の協働①組織と園務
10		10	保育者の協働②地域・小学校との協働
11		11	保育者の協働③他の専門職との協働
12		12	保育者の制度的位置づけー責務と資格・要件
13		13	保育者の成長ー学び続ける保育者
14		14	保育者のキャリア形成とライフプラン
15		15	講義のまとめ

<b>授業外学習内容とその時間</b>	事前学習としては、授業内で指示した課題を行う(1時間)。 事後学習としては、授業内で配布した資料の復習を行う(2時間)。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	フィードバックについては、授業内で全体と共有しながら適宜行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験	50%	ディスカッション	
レポート	40%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	随時、レジюме・資料を配布する。
<b>参考文献・推薦図書</b>	「日本人のしつけは衰退したかー『教育する家族』のゆくえ」 広田照幸 講談社 1999年 「家族援助を問い直す 第二版」 金田利子・齋藤政子編著 同文書院 2009年 ※その他、授業中に随時紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	保育原理、教育原理、保育実習指導Ⅰ、教育実習指導
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許、保育士資格

科目名

# 保育内容総論

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／幼免・保育士必修》

担当者

田中優也

実務経験

授業の概要

幼稚園教育要領や保育所保育指針の趣旨を理解し、保育の基本についての考え方を学習する。保育内容が乳幼児の「発達の側面」から5つの領域でしめされていることを理解する。保育の本質である遊びを通しての総合的指導を実現し、実践的指導力を養うためには保育内容はどうあるべきかを学ぶ。

到達目標

・領域別に学習する保育内容が実践の保育現場では統合して、実践されていることを理解する。  
・保育の基本とされている”総合的な指導”が行えるようにする。

事前事後学習

毎授業前に「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」を熟読しておくこと。  
授業後は、ノートをまとめ、授業内容の理解に努めること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	1年後期
1		1	オリエンテーション:授業の概要説明
2		2	保育内容とは
3		3	保育内容の区分
4		4	保育内容の歴史ー日本と欧米
5		5	教育と養護の関連
6		6	遊びとその特徴
7		7	個と集団の育ち
8		8	観察と記録の意義
9		9	保育の一日の流れ
10		10	保育現場における劇遊び
11		11	劇の制作および練習
12		12	劇の制作および練習
13		13	劇の制作および練習
14		14	劇の制作および練習
15		15	発表

授業外学習内容 とその時間				
課題のフィード バック方法				
	<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
	定期試験	40%	ディスカッション	
	レポート		プレゼンテーション	
	小テスト	20%	スピーチ	
	発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
	平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
	その他	20%	その他	

テキスト	コンパクト版保育者養成シリーズ「保育内容総論」一藝社
参考文献・推薦図書	「幼稚園教育要領」 / 「認定こども園教育・保育要領解説」 / 「保育所保育指針」
関連のある授業科目	保育内容5領域科目
資格等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# 保育内容指導法

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／幼免必修》

担当者

岡山愛子

実務経験

幼稚園に勤務

授業の概要

保育内容を踏まえた指導に関する理解と子どもの発達課題に応じた遊びの効用を学習し、指導法について具体的・実践的に学ぶ。課題制作やレポート作成にも取り組みながら、保育現場での多様な展開を理解する。

到達目標

- ・子どもについての理解を深め、保育現場での基本的な指導法を習得する。
- ・保育計画における立案方法などの基礎的要素を理解する。
- ・園行事に対する事例や内容を研究し、実践を通して保育技術を身につける。

事前事後学習

毎授業の資料を振り返り、講義や演習の内容と合わせて整理すること。  
教材や指導案の作成においては授業時間内に成果を上げるため、授業に臨む前に資料収集や教材研究などの準備をしておくこと。予定の段階まで進まない場合は授業時間外での取り組みを行うこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション:授業概要の説明・保育現場での指導法	1 6	絵本の特性
2	子ども理解と保育指導法の意義	1 7	絵本の読み聞かせの実践
3	子どもにとっての遊びの意義	1 8	保育に役立つ教材作成3:手袋人形作成①
4	子どもの発達と遊びの効用1(言葉)絵本・紙芝居	1 9	保育に役立つ教材作成4:手袋人形作成②
5	子どもの発達と遊びの効用2(造形)折り紙	2 0	手袋人形における作品の発表と振り返り
6	現代における子どもの実情	2 1	保育内容の指導(1):指導案作成の意義
7	3歳以上児における実習記録の意義	2 2	保育内容の指導(2):指導案の記入方法
8	3歳未満児における実習記録の意義	2 3	保育内容の指導(3): 部分実習のための教材研究および指導案作成①
9	保育に役立つ教材作成1:ペープサート作成①	2 4	保育内容の指導(4):部分実習のための教材研究および指導案作成②
1 0	保育に役立つ教材作成2:ペープサート作成②	2 5	園行事における指導案作成の意義
1 1	教材発表と振り返り	2 6	園行事における指導案作成の実際
1 2	子どもの発達と遊びの効用3(造形)新聞紙遊び	2 7	園行事における指導案作成の発表
1 3	保育形態の特性	2 8	保育者としての自分を育てる(1)保育者としての自分を問う
1 4	保育の目標と計画	2 9	保育者としての自分を育てる(2)保育者として大切なこと
1 5	まとめ	3 0	まとめ

<b>授業外学習内容とその時間</b>			
<b>課題のフィードバック方法</b>	製作課題を添削し、講義の際、学生に返却する。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験	50%	ディスカッション	有
レポート		プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	無
その他(課題提出)	30%	その他	

<b>テキスト</b>	「保育内容の指導法」名須川知子他 ミネルヴァ書房
<b>参考文献・推薦図書</b>	随時紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	保育内容五領域、保育内容総論、保育実習指導Ⅰなど
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# 保育原理

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／卒業必修》

担当者

惟任泰裕

実務経験

授業の概要

本講義では、保育者に求められる基礎・基本となる事項について取り扱う。まず、保育の意味を歴史的にたどるとともに、現代における社会的意義を検討する。また、「保育所保育指針」等における保育の基本と関連して、発達や環境という視点を用いて保育を捉える。それらを踏まえて、改めて保育内容と方法について、その原理を取り上げる。さらに、保育の思想・歴史から、保育を支える原理を確認し、現代的な課題についても検討・考察する。

到達目標

- ・保育に関する基本的な知識や姿勢を修得している。
- ・保育の制度、内容、方法について理解している。
- ・「保育所保育指針」の基本について理解している。
- ・保育の思想と現状について理解している。

事前事後学習

指定した文献やレジュメ等を授業前後で読み、理解を深めていくこと。ワークシートについては授業内で作業することが多いが、課題として配布し、その記入と提出を求める場合がある。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	○
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	1	
2	保育とは何か①「保育」の意味とその概念	2	
3	保育とは何か②保育の社会的意義	3	
4	保育とは何か③保育所保育	4	
5	保育の基本①発達のまなざし	5	
6	保育の基本②環境を通した保育	6	
7	保育の目標と内容－保育所保育指針	7	
8	保育の方法①生活と遊びを通した総合的な保育	8	
9	保育の方法②保育形態	9	
10	保育の方法③保育の計画・記録・評価	10	
11	保育の思想と歴史①ルソーとペスタロッチ	11	
12	保育の思想と歴史②オウエンとフレーベル	12	
13	保育の現状と課題①諸外国での現状	13	
14	保育の現状と課題②幼稚園とこども園	14	
15	講義のまとめ	15	

<b>授業外学習内容とその時間</b>	事前学習としては、授業内で指示した課題を行う(1時間)。 事後学習としては、授業内で配布した資料の復習を行う(2時間)。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	フィードバックについては、授業内で全体と共有しながら適宜行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験	50%	ディスカッション	
レポート	40%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	随時、レジюме・資料を配布する。
<b>参考文献・推薦図書</b>	適宜、紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	保育者論、教育原理
<b>資格等</b>	保育士資格

科目名

# こども家庭福祉

《2単位(講義)／幼児保育学科1年後期／卒業必修》

担当者

宮崎 由紀子

実務経験

授業の概要

保育者として、こどもの権利を守るための基本的な知識を修得する。  
こども家庭福祉を取り巻く環境は変化が激しく、厳しい状況にある。授業においては、歴史の変遷を学ぶとともに最新の状況について把握する。また、こども家庭福祉を構成する制度や実施体制や、支援現場における課題について学んでいく。

到達目標

- ・現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する
- ・子どもの人権擁護について理解する
- ・こども家庭福祉の制度や実践体系等について理解する
- ・こども家庭福祉の現状と課題について理解する
- ・こども家庭福祉の動向と展望について理解する

事前事後学習

事前学習として、次回授業に該当するテキストについて通読しておく。事後学習については、授業で学んだことを振り返り、課題(レポート等)についてまとめること。  
こどもに関する新聞記事等で興味関心を広げるようにしてほしい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	○
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1			子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷
2			現代社会の子ども家庭福祉
3			子どもの人権擁護の歴史の変遷
4			児童の権利に関する条約と現代
5			子ども家庭福祉の制度と法体系
6			児童福祉施設
7			子どもかて福祉の専門職
8			少子化と地域子育て支援
9			母子保健と子どもの健全育成
10			子ども虐待・DVとその防止
11			社会的養護
12			障害のあるこどもへの対応
13			特別な配慮のこどもとその家庭への対応
14			日本における子ども家庭福祉の動向と展望
15			諸外国の動向

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	20%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『最新保育士養成講座』総括編集委員会編『最新保育士養成講座 第3巻 こども家庭福祉』全国社会福祉協議会 2019
参考文献・推薦図書	随時、紹介する
関連のある授業科目	社会福祉、社会的養護、こども家庭支援論
資格等	保育士資格

科目名

# 社会福祉

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／卒業選択必修》

担当者

宮崎 由紀子

実務経験

授業の概要

専門職として理解が必要な社会福祉の概要について学ぶ。人びとが生活していくうえで欠かせない社会福祉と生活支援のつながりと意義について理解を深める。また、保育者として、社会福祉における子ども家庭支援の在り方について学びを行う。

到達目標

- ・社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
- ・社会福祉の制度、実施体系について理解する。
- ・社会福祉における相談援助について理解する
- ・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
- ・社会福祉の動向と課題について理解する。

事前事後学習

事前学習として、次回授業に該当するテキストについて通読しておく。事後学習については、授業中のミニテストにて振り返り、課題(レポート等)についてまとめること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	○
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	保育における社会福祉		
2	社会福祉の概念と歴史		
3	社会福祉のあゆみ		
4	社会福祉とこども家庭福祉		
5	社会福祉の制度と法体系		
6	社会福祉の施設と専門職		
7	社会保障と関連制度		
8	相談援助の理論		
9	相談援助の機能		
10	相談援助の対象・方法		
11	相談援助の展開過程		
12	相談援助の具体例		
13	利用者の権利擁護		
14	社会福祉の今後の動向と課題		
15	諸外国の状況		

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	20%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『最新保育士養成講座』総括編集委員会編『最新保育士養成講座 第4巻 社会福祉』全国社会福祉協議会 2019
参考文献・推薦図書	随時、紹介する
関連のある授業科目	こども家庭福祉
資格等	保育士資格

科目名

# 障害児保育

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／選択必修・保育士必修》

担当者

國生 絵美

実務経験

児童施設に勤務

授業の概要

障がいについての理解を深め、保育する上での留意点や支援の方法を学ぶ。療育機関等について知識を深める。自分の中にある障がい観と向き合い、人と人がつながりあうことの大切さを学ぶ。

到達目標

- ・どんな子どもであれ、自信を持って寄り添い関われる保育者であることを目指す。
- ・分らないことを分らないと質問したり、分かろうと努力する。
- ・障がいについての正しい理解をもち、より良い支援の技術を身に付ける。
- ・障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について学ぶ。

事前事後学習

- ・事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
- ・事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	・オリエンテーション 障がいとは何かを考える	16	・障がいの理解と保育支援③
2	・障がい保育の歴史	17	・肢体不自由児・脳性麻痺
3	・発達とは	18	・重症心身障害児・医療的ケア
4	・発達と障がい	19	・視覚・聴覚障害児・言語障害
5	・障がいの理解と保育支援 ①	20	・多様な支援を必要とする子ども
6	・知的障害	21	・指導計画の作成と記録
7	・染色体異常	22	・子どもたちの遊びや環境
8	・病弱	23	・こどもの視点・他者とのやりとり
9	・障がいの理解と保育支援 ②	24	・職員間の協働・連携
10	・自閉症スペクトラム①	25	・保護者や家族に対する理解と支援
11	・自閉症スペクトラム②	26	・専門機関との連携
12	・学習障害	27	・保育の現状と課題
13	・注意欠如多動症	28	・子どもの理解と支援
14	・発達性強調運動障害	29	・保育士に求められているもの
15	・前期のまとめ	30	・総括

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	20%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	実践に生かす障害児保育 萌文書林
参考文献・推薦図書	障害児保育 障害のある子どもから考える教育・保育久保田茂雄・小田豊編集 光生館
関連のある授業科目	社会的養護Ⅰ・社会的養護Ⅱ
資格等	保育士資格 ・ 幼稚園教諭

科目名

# 保育実習 I

《4単位(実習)／幼児保育学科1年後期／保育士必修》

担当者

森本直樹・惟任泰裕・田中優也

実務経験

授業の概要

保育所・児童福祉施設等の役割や機能、一日の流れについて、実践現場での体験を通して学習する。また、観察や子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深めたり、計画に基づく保育内容や環境について学んだりする。さらに、保育士の業務内容と職業倫理について具体的に学ぶ。

到達目標

- ・保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
- ・観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
- ・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
- ・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
- ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

事前事後学習

保育実習指導の内容をはじめ、他科目の総合が保育実習 I となり、保育所及び保育士の機能や役割をしっかりと理解しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下の I ~ V の5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	○
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

### 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
			2月～3月
			保育所実習(10日間)
			施設実習(10日間)

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他	100%	その他	

テキスト	随時配布する
参考文献・推薦図書	
関連のある授業科目	保育実習指導 I
資格等	保育士資格

科目名

# 保育実習指導 I

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／保育士必修》

担当者

森本直樹・惟任泰裕・田中優也

実務経験

授業の概要

保育実習 I に臨むに当たり、実習に関する事前、事後指導を行う。  
保育実習の意義・目的、内容を理解し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に学ぶ。さらに、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行う。

到達目標

- ・保育実習の意義・目的を理解する。
- ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
- ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
- ・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
- ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

事前事後学習

社会の中で働くことや保育士の社会的役割についてそれぞれ考え、学んでおくこと。特に、社会的なマナーを意識して日常生活を過ごし、現場で実習に取り組みさせていただく姿勢を培うようにしてほしい。また、実習の手続き、流れを十分に理解しておいてほしい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下の I ～ V の5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技術の修得	○
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業オリエンテーション(授業概要の説明)	16	観察実習と責任実習の違い・実習記録の記入方法
2	実習の意義・目的	17	実習記録の振り返り
3	保育士の職務と1日の流れ(1)(保育所・未満児)	18	先輩からの実習体験談
4	保育士の職務と1日の流れ(2)(保育所・以上児)	19	実習生調書の書き方,本実習の目標の立て方
5	保育士の職務と1日の流れ(3)(児童養護施設,乳児院)	20	本実習の目標の記入方法
6	保育士の職務と1日の流れ(4) (肢体不自由児施設,重症心身障害児施設)	21	保育所の実習記録の記入方法
7	保育士の職務と1日の流れ(5) (知的障害児施設,盲ろうあ児施設)	22	施設の実習記録の記入方法
8	実習の種類・内容	23	省察の書き方と実習記録のまとめ
9	実習の目標と実習の心得	24	教材研究(2)(夏休み課題の発表Ⅰ)
10	保育所実習の心得	25	教材研究(3)(夏休み課題の発表Ⅱ)
11	施設実習の心得	26	教材研究(4)(夏休み課題の発表Ⅲ)
12	実習記録の記入方法の概要と記入例	27	実習オリエンテーション(2)(訪問マナーⅡ)
13	教材研究(1)(夏休み課題の説明)	28	実習直前指導・実習上の守秘義務と職業倫理他
14	実習オリエンテーション(1)(訪問マナーⅠ 他)	29	実習における実践・観察・記録・評価の方法の理解
15	観察実習事前指導	30	実習事後指導(実習反省会用の資料説明)

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	40%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	30%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	30%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「保育実習・教育実習のてびき」「保育所保育指針」の他、随時資料を配布
参考文献・推薦図書	随時紹介する。
関連のある授業科目	保育実習Ⅰ
資格等	保育士資格

科目名

# こどもと表現

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

田邊裕子

実務経験

授業の概要

保育内容の領域「表現」に関するねらい及び内容を知らせ、豊かな感性や表現はどのようにして生まれるのか、音楽表現活動を通して子どもの発達と表現活動について理解を深める。また、前期の「保育内容【表現Ⅰ】」を踏まえ、歌唱や器楽合奏、身体表現、製作など、様々な表現活動を支えるための知識や技能を習得し、幅広い活動に対応できる保育者を目指す。

到達目標

- ・幼児の発達の特徴を理解し、様々な表現に対して共感し必要な援助ができる。
- ・幼児の特性に応じた題材選択や、その展開方法を学び実践に移すことができる。
- ・グループ活動を通し、学生相互の学び合いにより豊かな感性や表現力を高める。

事前事後学習

・授業内容の理解を深めるために、その日のうちに復習し、学習した内容を確実に身につけ、実習で活かせるよう努める。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技術の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	授業のねらいや進め方(オリエンテーション)
2		2	領域「表現」のねらいと内容
3		3	子どもの発達と音楽表現活動
4		4	手あそび・歌あそび・絵かき歌①(既存曲)
5		5	手あそび・歌あそび・絵かき歌②(創作)
6		6	リズムあそび・ヴォイスアンサンブル①(グループ練習)
7		7	リズムあそび・ヴォイスアンサンブル②(グループ発表)
8		8	リトミック①
9		9	リトミック②
10		10	ハンドベル合奏①(グループ練習)
11		11	ハンドベル合奏②(グループ練習)
12		12	ハンドベル合奏③(グループ発表)
13		13	器楽合奏①(グループ練習)
14		14	器楽合奏②(グループ発表)
15		15	まとめと振り返り

<b>授業外学習内容とその時間</b>	毎回の授業計画に合わせて予習をしておくこと。授業後は、内容をまとめ復習し、次回授業に備える。各自専用ファイルを用意し、授業で配布したプリントや楽譜類を綴じ整理すること。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	個人やグループによる課題発表体験により、相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	60%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	「幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子 監修・編著(株)教育芸術社、その他、随時資料、楽譜を配布
<b>参考文献・推薦図書</b>	「保育者のためのピアルレッスン」清原貴子編著 樞歌書房、「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社、その他、適宜、授業中に紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	基礎音楽、保育内容【表現Ⅰ】、教育実習指導
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# こどもと健康

《1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

塩見一成

実務経験

科目	教科及び教科の指導法に関する科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門事項(健康) ・こどもと健康	
授業の概要	領域「健康」の指導に関する、幼児の発育・発達、基本的なライフスタイル、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。また、これらの専門的事項と健康との関わりについて学ぶ。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「健康」のねらい及び内容を説明することができる。</li> <li>・乳幼児期の健康課題とその対策について説明することができる。</li> <li>・乳幼児期の発育・発達の特徴を説明することができる。</li> <li>・乳幼児の事故の実態および安全教育・安全管理の留意点を述べるることができる。</li> </ul>	
事前事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前に、テキスト「健康」の当該箇所を読んでおくこと。</li> <li>・授業の各関連事項のレポート提出 有り(新聞記事の要約など)。</li> </ul>	
	<b>ディプロマポリシーに係る学習成果</b>	<b>学科での関与度</b>
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

### 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション、健康に関するアンケート	1	
2	子どもの健康な育ちを保障するために	2	
3	健康で元気な子どもの姿	3	
4	子どもの全面発達と、現代っ子の健康課題	4	
5	生活リズムの獲得	5	
6	恒温の獲得	6	
7	五感の獲得	7	
8	成熟への発達の概要と援助	8	
9	運動発達の保証と体力	9	
10	脳の発達と概念の獲得	10	
11	基本的な生活習慣獲得の保障	11	
12	子どもの視点に立った安全生活の保障	12	
13	子どもの育ちと遊びの保障	13	
14	教育実践への活かし方	14	
15	まとめ	15	

<b>授業外学習内容とその時間</b>	前回の講義内容を配布資料を含めた上で理解し、他者に説明できるようにしておく。(目安時間:各回約2時間)		
<b>課題のフィードバック方法</b>	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート	30%	プレゼンテーション	有
小テスト	30%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	「演習 保育内容 健康」井狩芳子 著 萌文書林
<b>参考文献・推薦図書</b>	「事例で学ぶ保育内容 領域 健康」萌文書林
<b>関連のある授業科目</b>	保育内容【健康】・【環境】・【言葉】・【表現】・【人間関係】
<b>資格等</b>	幼稚園免許二種免許・保育士資格

科目名

# こどもと言葉

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

田中優也

実務経験

授業の概要

言葉を獲得する過程で最も重要な乳幼児期について認識を深め、言葉の発達について学ぶ。さらに、現代の社会状況が言葉の発達に与えている影響を理解した上で、保育現場における言葉の指導及び援助の方法について学ぶ。  
絵本の読み聞かせ(発表)も随時行う。

到達目標

- ・乳幼児期の言葉の発達について理解する。
- ・ことばを育てる保育者の役割と援助について理解を深める。
- ・ことばを育てる文化財について理解し、絵本の読み聞かせ等の基本的な実践方法を習得する。

事前事後学習

- ・毎授業の前に必ず、テキストの当該箇所を読んでおくこと。
- ・授業後には、ノートを整理し、資料などを復習しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技術の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

### 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	オリエンテーション :授業の学び方
		2	領域「言葉」のねらいと内容
		3	現代社会とことばをめぐる問題
		4	乳幼児期の発達とことば (誕生～1歳未満のころ)
		5	乳幼児期の発達とことば (1歳～2歳のころ)
		6	乳幼児期のことばの発達 (3歳～6歳のころ)
		7	乳幼児のことばの発達とおとなの存在
		8	信頼関係から生み出されることば
		9	自分の考えや思いを伝えることば
		10	保育の中の文化財
		11	書きことば(文字)が広がる世界
		12	ごっこ遊びとことば
		13	ことばを育てる保育者の役割と援助
		14	こどもの特性に応じた配慮と支援
		15	まとめ

授業外学習内容とその時間	
課題のフィードバック方法	
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>
定期試験	70%
レポート	
小テスト	
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%
平常点・授業への貢献度	20%
その他	
<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
ディスカッション	
プレゼンテーション	
スピーチ	
ロールプレイ	
教室外学習	
その他	

<b>テキスト</b>	デザインする保育内容指導法「言葉」教育情報出版
<b>参考文献・推薦図書</b>	子どもが育つ魔法の言葉 PHP研究所
<b>関連のある授業科目</b>	保育内容指導法、保育の心理学など
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# こどもと人間関係

《1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

中富尚宏

実務経験

授業の概要

幼児教育の現場は、まさに人と人が出会い、関わる場である。本講義では、領域「人間関係」の指導の基礎となる、こどもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項について、発達・社会・臨床心理学的側面より解説していく。  
また、グループワークや事例検討等も積極的に取り入れ、受講者自身のコミュニケーション・スキルの向上もはかりたい。

到達目標

・こどもを取り巻く人間関係の現代的問題について理解する。  
・子どもの人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解を深める。  
・乳幼児期における人と関わる力の育ちと保育者・教師の役割について理解する。

事前事後学習

・下記テキストの関連箇所および配布資料を授業回前後に読み、理解を深めながら取り組むこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(講義の目的と目標)こどもを取り巻く人間関係	1	
2	地域の中で育まれる子ども同士のかかわり	2	
3	乳児期の人とかかわる力の育ち	3	
4	3歳児未満の人とかかわる力の育ち:自我の芽生え	4	
5	3歳児未満の人とかかわる力の育ち:感情の発達	5	
6	3歳児以上の人とかかわる力の育ち:遊びの発達	6	
7	3歳児以上の人とかかわる力の育ち:協同性の発達	7	
8	3歳児以上の人とかかわる力の育ち:個と集団	8	
9	乳幼児の人とかかわる力を育む保育者の役割: 安心・安全の心の基地としての役割	9	
10	乳幼児の人とかかわる力を育む保育者の役割: モデルとしての役割	10	
11	個と集団の育ち:自分の居場所の発見	11	
12	個と集団の育ち:クラス内での子どもの関係	12	
13	実際の子どもの生活:子どもの生活習慣と意欲	13	
14	実際の子どもの生活:生活を育むかかわりと協同性	14	
15	講義全体のまとめ	15	

<b>授業外学習内容とその時間</b>	前回の講義内容を配布資料を含めたうえで理解し、他者に説明できるようにしておく(目安時間:各回約2時間)		
<b>課題のフィードバック方法</b>	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート		プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	80%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	「実践から学ぶ子どもと人間関係」浅見均編、大学図書出版 ※随時レジュメ配布
<b>参考文献・推薦図書</b>	社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」、無藤隆、古賀松香編 北大路書房
<b>関連のある授業科目</b>	保育内容【生活と人間関係】、保育の心理学等
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# 保育内容【人間関係】

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

中富尚宏

実務経験

科目

領域及び保育内容の指導法に関する科目

施行規則に定める科目  
区分又は事項等

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業の概要

子どもの健全な発達には、子どもたちを取り巻く他者(家族・保育者・友だち・地域社会等)との良好な関係づくりが不可欠であることを学ぶ。また、その中で子どもは、愛他的行動、道徳性、社会性、自立心等を育み、自らの存在を認められている感覚や「自分らしさ」を發揮していくことを学ぶ。

到達目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「人間関係」のねらいや内容等を理解する。
- ・領域「人間関係」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- ・子どもの良好な育ちへ寄与する、保育者としての心構えを習得する。
- ・具体的な保育を想定した、指導計画の作成方法を理解する。

事前事後学習

- ・下記テキストの関連箇所および配布資料を授業回前後に読み、理解を深めながら取り組むこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション(講義の目的と目標), 保育の基本
2		2	領域「人間関係」のねらいと内容
3		3	年齢による発達の特徴:(0・1・2歳児)
4		4	年齢による発達の特徴:(3歳児) 視聴覚教材(映像)を視聴して気づいたことをまとめる。
5		5	年齢による発達の特徴:(4・5歳児<前半>)
6		6	年齢による発達の特徴:(5歳児<後半>)教材(絵本)に描かれている人間関係について考える。
7		7	子どもの社会性の発達:(自立心・葛藤)
8		8	子どもの社会性の発達:(道徳性・生きる力)
9		9	子どもの社会性の発達:(向社会的行動・思いやり)
10		10	特別の配慮を要する子どもたちの理解 視聴覚教材(映像)を視聴して気づいたことをまとめる。
11		11	特別の配慮を要する子どもたちへの支援方法発表(情報機器の活用法を含む)
12		12	子どもの安心につながる保育者の関わり
13		13	保育者の連携体制について
14		14	家庭・家族・地域に育まれる子どもたち
15		15	人間関係の指導計画発表(情報機器の活用法を含む) 講義全体のまとめ

<b>授業外学習内容とその時間</b>	前回の講義内容を配布資料を含めたうえで理解し、他者に説明できるようにしておく(目安時間:各回約2時間)		
<b>課題のフィードバック方法</b>	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート		プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	80%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	「人間関係」 小櫃智子・谷口明子編著 一藝社 ※随時レジュメ配布。
<b>参考文献・推薦図書</b>	最新保育講座⑧保育内容人間関係 森上史郎・小林紀子・渡辺英則編 ミネルヴァ書房 「幼稚園教育要領」/「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
<b>関連のある授業科目</b>	保育の心理学、保育内容総論
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# 保育内容【環境】

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者	渡邊容子	実務経験	
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業の概要	<p>まず、環境の意味を抑え、環境を取り巻く、5つの資源(社会的資源・物的資源・文化的資源・人的資源・天然(自然)資源)を具体的に理解する。</p> <p>また、子どもが身近な環境と積極的にかかわり、好奇心・探求心をもち、それらを生活に取り入れていこうとする力、豊かな感性を育てる保育内容について学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領における教育の基本、ねらい、内容並びに全体構造を理解した上で、領域「環境」のねらいと内容を理解する。</li> <li>・幼児の発達段階を踏まえ、環境に興味や関心を示し、環境に対する豊かな感性を育てることを想定した指導案の作成が出来る。</li> <li>・身近な環境、たとえば地域社会と積極的にかかわり、さらに小学校とのつながりを踏まえた上で領域の全体構造を理解する。</li> </ul>		
事前事後学習	<p>・事前では、身近な環境に気付き、興味や関心を示すこと。</p> <p>学習後は、学んだ内容を実際の生活の中に取り入れ豊かな感性を育てる。</p>		
	ディプロマポリシーに係る学習成果		学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する		○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている		右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている		
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。		
I	保育者としての基礎的な教養の修得		
II	保育者としての基礎的な技能の修得		
III	保育及び援助の目的の理解		
IV	保育及び援助の対象の理解		
V	保育及び援助の方法の理解		○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション：授業の概要説明	1	
2	「環境」とは何か	2	
3	環境—天然（自然）資源	3	
4	環境—社会的資源	4	
5	環境—人的資源	5	
6	環境—物的資源	6	
7	環境—文化的資源	7	
8	「保育所保育指針」の中の環境に関するねらい・内容	8	
9	「幼稚園教育要領」の中の環境に関するねらい・内容	9	
10	「認定こども園」の中の環境に関するねらい・内容	10	
11	環境と道徳性（規範意識）	11	
12	生活の中での図形・数量・文字の学び	12	
13	文化・伝統行事・地域社会とのつながり	13	
14	環境を踏まえた指導案の作成	14	
15	まとめ	15	

## 成績評価基準及び方法

学習態度（20%）、授業内提出物（20%）、小テスト（20%）、定期試験（40%）	
<b>テキスト</b>	<b>参考文献・推薦図書</b>
コンパス『保育内容環境』高橋貴志・目良秋子編著建帛社	「幼稚園教育要領」／「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」／「保育所保育指針」
<b>関連のある授業科目</b>	<b>資格等</b>
保育内容総論・保育内容指導法	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# 保育内容【言葉】

《1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

田中優也

実務経験

科目

領域及び保育内容の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分又は事項等

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業の概要

幼稚園、保育所の保育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに示された当該領域のねらい及び内容について背景となる5領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達段階を理解し、主体的・対話的な学びを勘案し、具体的指導場面をイメージし、保育の実現方法について考慮し、身につける。

到達目標

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を把握し、指導上の留意点を理解し、小学校の教科などとの繋がりを考える。
- ・幼児の心情や認識、活動などを視野に入れた保育構想の重要性、領域「言葉」との特性などと関連した情報機器や教材などを保育構想に活用することができる。
- ・模擬保育とその振り返りで改善点を整理し、領域「言葉」の特性に応じた現代課題を知り、保育構想に取り組める。

事前事後学習

- ・毎授業の前に必ず、テキストの当該箇所を読んでおくこと。
- ・授業後には、ノートを整理し、資料などを復習しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

### 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション :言葉のもつ機能		
2	コミュニケーションの基本的理解		
3	5領域の概要とと領域「言葉」のねらい・内容		
4	乳幼児の発達段階をふまえた内容と指導上の留意点		
5	保育における評価の考え方		
6	幼児が経験し身につける領域「言葉」の内容		
7	保育における絵本の読み聞かせの意義		
8	絵本の読み聞かせの実施		
9	絵本の読み聞かせの発表		
10	指導案の構造の理解		
11	指導案の作成の実施(3歳児)		
12	指導案の作成の実施(4歳以上児)		
13	指導案作成による模擬保育の実施とその振り返り		
14	領域「言葉」の特性に応じた現代的課題		
15	領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向		

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他	10%	その他	

<b>テキスト</b>	テキスト:教育 保育シリーズ「保育内容 言葉」秋田喜代美・野口隆子 編著(光生館)
<b>参考文献・推薦図書</b>	「幼稚園教育要領」フレーベル館「保育所保育指針」フレーベル館、「幼保連携型認定こども園・保育要領解説」フレーベル館、随時資料を配布する。
<b>関連のある授業科目</b>	保育内容指導法、保育内容【表現Ⅰ】、保育内容【表現Ⅱ】など
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# 保育内容【表現Ⅰ】

《1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

田邊裕子

実務経験

授業の概要

感性と表現に関する領域「表現」は、子どもの豊かな感性を育て感じたことや考えたことを表現する意欲を養い創造性を豊かにする観点から示したものである。そこで、子どもたちの日々の生活や遊びの中から子ども一人ひとりの表現を読み取り、子どもの個性を尊重し、それぞれの成長・発達に合わせた表現活動ができる保育者を目指す。  
授業では、音楽・身体表現を中心に、保育の総合的な表現活動を展開する。また、創造的・即興的な表現活動を通して、豊かな感性や表現する力を養う。さらに保育内容を把握したうえで、幼児期における生活と遊びの中で親しまれている教材だけでなく、情報機器を活用した指導方法についても理解を深める。

到達目標

- ・子どもの生活や遊びを通して音楽表現や身体表現などを理解する。
- ・領域「表現」の特性及び幼児の経験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- ・子ども一人ひとりの表現力や創造力を伸ばすための工夫や指導の方法を習得する。
- ・グループ活動を通し、学生相互の学び合いにより豊かな感性や表現力を高める。

事前事後学習

- ・授業に関連した子どもの表現活動の事例を集め、マルチメディアを活用した発表や実践の準備をすること。
- ・事後学習として、個人およびグループ活動による発表や作品に対する評価・反省などを、保育者の専門技術に生かせるよう整理をして記録しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業のねらいや進め方(オリエンテーション)	16	
2	領域「表現」のねらいと内容	17	
3	子どもの発達と音楽表現活動(情報機器使用)	18	
4	わらべうたとリズムあそび・手あそび	19	
5	生活と行事の歌(情報機器使用)	20	
6	季節の歌(春・夏)	21	
7	季節の歌(秋・冬)	22	
8	身近な歌(ディズニー・アニメソング)	23	
9	ICTを活用した音楽表現の指導法	24	
10	指導計画立案と評価に対する考え方(情報機器及び教材の活用法を含む)	25	
11	模擬保育(歌唱指導)に向けた計画立案(情報機器及び教材の活用法を含む)	26	
12	模擬保育(歌唱指導)に向けた準備と練習(情報機器及び教材の活用法を含む)	27	
13	模擬保育(歌唱指導)として指導実践の発表(情報機器及び教材の活用法を含む)	28	
14	指導案の作成と提出(情報機器及び教材の活用法を含む)	29	
15	まとめと振り返り	30	

<b>授業外学習内容とその時間</b>	毎回の授業計画に合わせて予習をしておくこと。授業後は、内容をまとめ復習し、次回授業に備える。各自専用ファイルを用意し、授業で配布したプリントや楽譜類を綴じ整理すること。弾き歌いの練習を怠らないこと。
---------------------	---

<b>課題のフィードバック方法</b>	課題の発表・模擬保育体験により、相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。
---------------------	---

成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	60%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	「幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子 監修・編著(株)教育芸術社、その他、随時資料、楽譜を配布
<b>参考文献・推薦図書</b>	「保育者のためのピアレッスン」清原貴子編著 樞歌書房、「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 その他、適宜、授業中に紹介する。「幼稚園教育要領」/「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
<b>関連のある授業科目</b>	基礎音楽、こどもと表現、教育実習指導
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# 保育内容【表現Ⅱ】

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

森本直樹

実務経験

授業の概要

領域「表現」のねらい及び内容をふまえて、幼児造形表現の理論と実践、実技を学ぶ。造形要素による子どもの発達を理解し、教材研究をとおして、様々な素材や用具、表現法に触れ、理解する。幼児造形活動の指導や支援に必要な基礎的な知識や技術を習得し、就学前教育においてのつながりを身に付けさせるための、方法や指導を理解する。また協同制作での対話や、造形遊び、描く、作る活動内容をとおして、楽しさを味わい、保育者としての感性や造形表現力及び、指導方法を身につける。

到達目標

- ・領域「表現」のねらい及び内容について理解する。
- ・子どもの造形の発達段階や学びにおけるの課程を理解する。
- ・素材や用具、表現法に触れ、幼児造形活動の指導法や支援に必要な、基礎的な知識と技術を体験する。
- ・就学前教育における内容の関連性や教科等のつながりについて理解する。
- ・個人やグループでの対話や制作に積極的に取り組み、幼児の造形表現が豊かになるための工夫を体験する。

事前事後学習

- ・指定された用具を持参すること。
- ・造形表現活動に関する題材や資料の収集をすること。
- ・授業内に作品が仕上がらない場合は、指定する期限までに完成させること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション: 幼児の造形表現についての概観	16	幼児造形の指導: かく活動の制作体験
2	幼児の造形表現の理解: 領域「表現」のねらい及び内容についての理解	17	幼児造形の指導: かく活動の指導法
3	ものを観察して: デッサンを描く	18	幼児造形の指導: つくる活動の制作体験
4	色彩基礎: 色相環の理解、色彩構成(基礎)	19	幼児造形の指導: つくる活動の指導法
5	絵画表現と画材経験: モダンテクニック技法	20	造形遊びの理解: ねらいと内容、制作体験
6	絵画表現と画材経験: 組み合わせによる描画	21	造形遊びの理解: 実践と評価
7	子どもの発達と造形表現の理解: かく活動	22	子どもの発達: 幼児絵画の見方
8	子どもの発達と造形表現の理解: つくる活動	23	造形表現の実践: 教材開発研究
9	造形表現の基礎: 線描における表現	24	造形表現の実践: 指導案作成
10	造形表現の基礎: 絵の具における表現	25	造形表現の実践: 模擬保育
11	造形表現の基礎: 遊び活動	26	造形表現の実践: 模擬保育の振り返り、まとめ
12	造形表現の基礎: 素材における活動	27	造形表現の応用: 協同活動の実践と指導法
13	作品制作: 絵本の世界(イメージづくり)	28	造形表現の応用: 教材制作(協同制作)
14	作品制作: 絵本の世界(鑑賞、評価)	29	造形表現の応用: 教材制作、発表(協同制作)
15	まとめ: 振り返り(ワークシート活動、レポート作成)	30	まとめ: 振り返り(ワークシート活動、レポート作成)

<b>授業外学習内容とその時間</b>	毎回の授業計画に合わせて教科書を使い予習・復習を1時間程度しておく。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	課題作品完成後、作品、ワークシートなどのポートフォリオを作成しておくこと。ポートフォリオの作成については、授業内で説明をする。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート	20%	プレゼンテーション	有
課題等提出物	50%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	有
その他		その他	

<b>テキスト</b>	『幼児造形の基礎-乳幼児の造形表現と造形教材-』 編著 樋口一成 萌文書林 2018
<b>参考文献・推薦図書</b>	『流れがわかる幼稚園・保育所実習』 発達年齢、季節や場所にあった指導案を考えよう 浅川繭子著他 萌文書林 2015
<b>関連のある授業科目</b>	保育内容指導法、保育内容総論など
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# こどもの理解と援助

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／保育士必修》

担当者

中富尚宏

実務経験

授業の概要

発達を援助するために重要な心身発達のアセスメント、子どもの経験や学習過程について理解を深める。また、実際にどのような援助、支援が考えられるのか、子ども理解に基づく援助の具体的な方法についても理解を深める。

到達目標

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解、する。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

事前事後学習

・下記テキストの関連箇所および配布資料を授業回前後に読み、理解を深めながら取り組むこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	○
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション(講義の目的と目標) 保育における子ども理解の意義
2		2	子どもの発達の特徴
3		3	子ども理解と子どもとの関わり
4		4	環境を通しての教育と子ども理解
5		5	子ども理解とは
6		6	個と集団の関係
7		7	子どもを理解するための保育者の姿勢
8		8	子どもを理解するためのカウンセリングマインド
9		9	観察、記録、省察・評価
10		10	職員間の対話、保護者との情報の共有
11		11	発達の課題に応じた援助と関わり
12		12	特別な配慮を要する子どもの理解
13		13	特別な配慮を要する子どもの援助
14		14	発達の連続性と就学への支援
15		15	講義全体のまとめ、子育て支援と保育相談

<b>授業外学習内容とその時間</b>	前回の講義内容を配布資料を含めたうえで理解し、他者に説明できるようにしておく(目安時間:各回約2時間)		
<b>課題のフィードバック方法</b>	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート		プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	80%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	子ども理解と保育実践 萌文書林
<b>参考文献・推薦図書</b>	「保育の心理学Ⅱ」 井戸ゆかり編著 萌文書林
<b>関連のある授業科目</b>	保育の心理学、子ども家庭支援の心理学
<b>資格等</b>	保育士資格・ピアヘルパー認定資格

科目名

# 社会的養護 I

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期・保育士資格必修》

担当者

桐原誠

実務経験

授業の概要

社会的養護とは、「保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと」である。本講義では、社会的養護の意義と歴史の変遷を学び、そうした家庭を支える児童福祉施設職員、里親、行政の現状に触れていながら今日における社会的養護の課題について具体的に考察していく。

到達目標

- ・社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する
- ・施設養護の意味と施設の機能・役割を理解する
- ・社会的養護の制度や実施体系等を理解する
- ・児童の人権擁護や自立支援について理解する

事前事後学習

- ・事前に教科書を読んで予習しておきましょう。
- ・講義後は習った箇所を復習しましょう。
- ・板書したものは必ずノートに記入しましょう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	○
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	16	
2	社会的養護の現状	17	
3	社会的養護の歴史的変遷と今日的課題	18	
4	社会的養護の制度と実施体系について	19	
5	児童養護の理念と施設養護の原理・原則	20	
6	子どもの権利擁護について	21	
7	要養護児童の発達課題と養護の在り方	22	
8	児童養護施設の領域と概要	23	
9	施設養護における理論と実践	24	
10	ソーシャルワークの方法と技術	25	
11	施設と関係機関の連携	26	
12	施設職員の専門性と子ども観について	27	
13	里親とは何か	28	
14	社会的養護の課題と今後の展望	29	
15	総括	30	

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	50%	ディスカッション	
レポート	20%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	参考文献・推薦図書
「よくわかる社会的養護」ミネルヴァ書房 育・幼児教育のフロンティア」晃洋書房	「保 随時紹介
関連のある授業科目	資格等
こども家庭福祉 社会的養護Ⅱ	保育士資格

科目名

# 社会的養護Ⅱ

《2単位(講義)／幼児保育学科1年後期・保育士資格必修》

担当者

桐原誠

実務経験

授業の概要

社会的養護の役割とは、子どもの権利擁護を基本として、子どもたちが安全且つ安心できる生活を保障し、社会的自立を見据えて支援していくものである。本科目は演習科目である為、児童福祉施設における支援の在り方に焦点をあて、保育士の専門性やソーシャルワーク、自立支援計画と内容、地域社会・学校との関係作り等、事例を通して理解を深めていく。

到達目標

- ・施設養護や社会的養護の実態を学ぶ
- ・現場で実践できるソーシャルワークの方法と技術の習得
- ・施設で生活する子どもたちの支援について、事例等を通して考える力を養う
- ・児童観や施設養護観を養う

事前事後学習

- ・事前に教科書を読んで予習しておきましょう。
- ・講義後は習った箇所を復習しましょう。
- ・板書したものは必ずノートに記入しましょう。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技術の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	社会的養護の背景と捉え方
3		3	施設養護の目的と機能
4		4	児童虐待の現状と課題
5		5	児童福祉施設における養護内容①
6		6	児童福祉施設における養護内容②
7		7	コミュニケーションスキルについて
8		8	個に応じた自立支援計画と内容
9		9	ソーシャルワークの技法①
10		10	ソーシャルワークの技法②
11		11	施設養護の実践と方法①
12		12	施設養護の実践と方法②
13		13	施設と関係機関の連携
14		14	施設職員の資質と倫理
15		15	総括

授業外学習内容とその時間				
課題のフィードバック方法				
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>	
定期試験	50%	ディスカッション		
レポート	20%	プレゼンテーション		
小テスト		スピーチ		
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ		
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習		
その他		その他		

<b>テキスト</b>	<b>参考文献・推薦図書</b>
「よくわかる社会的養護内容(第3版)」ミネルヴァ書房 「乳児保育のフロンティア」晃洋書房	随時紹介
<b>関連のある授業科目</b>	<b>資格等</b>
こども家庭福祉 社会的養護 I	保育士資格

科目名

# こどもの保健

《4単位(講義)／幼児保育学科1年通年／卒業・保育士必修》

担当者

田中優也

実務経験

授業の概要

子どもは絶えず成長し、健康な体と健全な心を育むためには、健康が保持・増進されなければならない。そのために、子どもの成長・発達、栄養・生活への適応や、養護・社会の制度や施策、また病気や事故などの特徴・対応・予防について学び保育士として必要な知識を身につける。

到達目標

- 1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
- 2.子どもの身体発育や生理機能及び、運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
- 3.子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
- 4.子どもの精神保健とその課題等について理解する。
- 5.保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。
- 6.施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

事前事後学習

毎授業の前に『』の当該箇所を読んでおくこと。  
授業後にはノートを整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	○
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	O・R 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目	16	
2	健康の概念と健康指標 地域における保健活動と児童虐待防止	17	
3	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	18	
4	身体発育と保健	19	
5	生理機能の発達と保健	20	
6	運動、精神機能の発達保健	21	
7	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 免疫とアレルギー疾患	22	
8	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 慢性疾患	23	
9	子どもの疾病の予防と適切な対応 発熱・嘔吐・下痢	24	
10	小児期からの生活習慣の予防の重要性 生活習慣病とは	25	
11	保育環境と衛生・安全管理 保育環境整備と保健・食中毒への対応	26	
12	保育環境と衛生・安全管理 事故防止と安全対策・危機管理	27	
13	健康及び安全の実施体制 職員間の連携の組織的取組・母子保健対策と保健	28	
14	保育所における避難訓練	29	
15	まとめ	30	

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「図表で学ぶ子どもの保健Ⅰ」 加藤忠明・岩田力編著 建帛社
参考文献・推薦図書	「からだのしくみ全書」 高橋健一 中央文化社
関連のある授業科目	子どもの健康と安全、子どもの食と栄養、乳児保育
資格等	保育士資格

# 乳児保育 I

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／保育士必修》

担当者

賀久久美子□

実務経験

保育園に勤務

授業の概要

受精から誕生までのメカニズムを絵本を通して学ぶ。  
尊い生命を通してその成長と援助に必要な知識を学び、人の愛情ある行動の重要性を確認する。乳児期の基本的な生活習慣が身に付き生きる力の基盤が出来上がると云われる。“育てること”は生命を守ること。人の生涯の基礎づくりの時期に携わる者として心して学ぶ。育てることは素晴らしい。

到達目標

知識を習得し感性豊かな保育者になることを目指す。  
・成長、発達に応じた特質や援助のあり方を習得する。  
・乳児保育の実践に対応できる知識を得て心と体力を養う。  
・自らの基本的な生活習慣を見直す。

事前事後学習

① テキストを事前によく読んだり、学ぶべき内容を把握する。  
② 講義内容をまとめ、興味関心を深め楽しめる工夫をする。  
③ 学んだことを、実習など現場で活用表現できるようにする。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

### 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(乳児保育制度、保育指針とは)		
2	新しい生命との出会い 新生児の特徴		
3	乳児保育の視点、養護と教育の一体性		
4	乳児期の心身の発達、言葉とコミュニケーションの発達		
5	自己意識の発達、認知の発達		
6	6か月未満児(発達の過程、体験と遊び、調乳と授乳)		
7	6か月～12か月児(発達の過程、生活の援助、離乳食)		
8	1才～1才3か月(アンヨができた、体験と遊び・援助)		
9	1才3か月～2才未満児(発達の過程、体験と遊び・援助)		
10	子どもにやさしい安全と保育環境		
11	2才児の育ちと援助、体験と遊び		
12	30か月児の育ちと援助、体験と遊び		
13	保育指針(乳児保育における記録と評価)		
14	乳児保育の指導計画、実践記録		
15	職員間の連携74、保護者との連携と協働		

<b>授業外学習内容とその時間</b>	教科書を事前に読んで、単元の主題について理解する。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	適宜内容についての課題を出し理解を深める。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験	40%	ディスカッション	無
レポート	20%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	有
その他		その他	

<b>テキスト</b>	「見る考える創り出す乳児保育」萌文書林 随時資料配布
<b>参考文献・推薦図書</b>	「乳児保育の基本」フレーベル館 「なるほど赤ちゃん学」
<b>関連のある授業科目</b>	子どもの保健・子どもの健康と安全・乳児保育Ⅱ
<b>資格等</b>	保育士資格

# 乳児保育Ⅱ

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／保育士必修》

担当者

賀久久美子□

実務経験

保育園に勤務

授業の概要

乳児は生まれてすぐは未熟で手厚い養護を必要とする。乳児の育ちを理解し、その基礎の上に乳児の生活や遊びについて具体的に演習をする。乳児期の生活から遊びが生まれ、遊びから学ぶとも言える。保育の内容や方法、保育計画などを習得する。

到達目標

○乳児保育における健やかな成長発達を支える養護、保育内容を理解し実践できる。  
・乳児保育Ⅰでの学習を基礎にして、求められる知識や技術の理解を深める。  
・乳児の生活や遊びの場面における保育のポイントを実践的に理解する。  
・乳児期の心身の発達の知識を学び、どのように保育のねらいを達成するのか実際に指導計画を立てる。 ・乳児保育の現状と課題について理解する。

事前事後学習

①毎授業前には必ずテキストをよく読んだり、学ぶべき内容を把握する。  
②講義内容をまとめ、興味関心を深め楽しめるよう工夫する。  
③学んだことを実習など現場で活用、表現できるようにする。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

### 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	オリエンテーション(乳児保育の基本)
		2	乳児期の生活と保育、思春期への育ち
		3	清潔の保持、よい眠り(沐浴、着替え)
		4	乳児保育と保育内容(乳児のあそび、小麦粉粘土)
		5	子どもの活動と支援、援助の実践内容
		6	園児と遊ぼう(子ども達との交流)
		7	乳児保育と保育内容(乳児とおもちゃ)
		8	乳児保育と保育内容(布おもちゃ)
		9	乳児保育計画と立案、実践上の配慮
		10	玩具、遊具の環境(遊具でコミュニケーション)
		11	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定
		12	子どもの基本生活 保育の流れと働き
		13	乳児の発達と活動への関わり
		14	乳児保育における連携、家庭支援
		15	乳児保育の課題と対応

<b>授業外学習内容とその時間</b>	教科書を事前に読んで、単元の主題について理解する。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	課題に対して書見(改善やアドバイス)を付け返却する。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験	40%	ディスカッション	無
レポート	20%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	無
その他		その他	有

<b>テキスト</b>	乳児保育第3版 保育所保育指針 随時資料配布
<b>参考文献・推薦図書</b>	乳児保育Ⅱ 生活習慣百科 ココロとカラダほぐしあそび
<b>関連のある授業科目</b>	子どもの保健・子どもの健康と安全・乳児保育Ⅰ
<b>資格等</b>	保育士資格

科目名

# 人間研究

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／選択必修》

担当者

山本八重子

実務経験

授業の概要

青少年の時期は、自分を取り巻く世界との接触によって心身ともに大きく成長し変化する。本講義では、人と人、人と社会との関係などについて、さまざまな分野から切り込み、八代に関係ある実在した人物及び児童文学等に登場した人物像に焦点を当て、人間の生き方及び人間関係や社会生活のあり方について考えさせる。また、グループで活動したり、意見を発表する場を設けたりして多面的な展開をして自分自身の生活を振り返らせる。

到達目標

本講義で学んだことを自分なりに咀嚼しノートにまとめ、自己理解、他者理解、人間理解を深めることができる。人の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりして主体的な活動ができるようにする。

事前事後学習

ノートは必ず持参し配布されたプリントは糊づけすること。  
た、5回と10回は終了後ノートを提出すること。  
人になってもノートを身近に置き参考にするよう心掛けること。

ま  
社会

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション(授業内容の説明)
2		2	君はどう生きるか
3		3	芥川龍之介『蜘蛛の糸』に学ぶ
4		4	芥川龍之介『蜘蛛の糸』に学ぶ
5		5	浜田廣介『泣いたあかおに』に学ぶ
6		6	学長「中川静也先生」に学ぶ
7		7	学長「中川静也先生」に学ぶ
8		8	逆境を生きる農聖松田喜一氏に学ぶ
9		9	逆境を生きる農聖松田喜一氏に学ぶ
10		0	逆境を生きる農聖松田喜一氏に学ぶ
11		11	坂本村出身 谷口巳一郎氏に学ぶ
12		12	偉人のうち一人を決めて調べまとめる
13		13	まとめたことを発表する 小論文の課題
14		14	課題提出
15		15	講義のまとめ

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法	課題について小論文にまとめた作品を添削して返却する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	60%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	随時提示
参考文献・推薦図書	新聞 コラム提示
関連のある授業科目	
資格等	幼稚園教諭2種免許

科目名

# 心理学

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期》／選択必修

担当者

坂本哲朗

実務経験

授業の概要

「かつて大人は子どもであった」のだから、振り返れば分かることもあるかもしれない。子どもの成長に関わろうとする若者たちの今の心は、日々どのように揺れ動いているのだろうか。本授業では、個人の心理や言動を社会との関係において解明し、心地よく生きる道筋を探究する。家族心理学、教育心理学、社会心理学などから幅広く学ぶ中で、自他の理解を深め生き抜く知恵を学び合う。また、「人はなぜいじめるのか」の緊急かつ大命題の理解と解決への方策に迫る。

到達目標

- ・心についての一般的知識を得て整理することができる。
- ・ペアから始まり、集団での交流活動で積極的に参加することができる。
- ・心に関わる各種情報に関心を持ち、学習課題に活用することができる。
- ・自己の特長を最大に発揮し、意見発表や討論協議ができる。

事前事後学習

心の問題について日常的に関心を持ち、ノートに切り抜きやメモをしておく。  
緊急に解決すべき課題が発生した場合の解決策として、身近な人、物、事との絆づくりを進める。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション。幼稚園の砂場で学んだこととは	1	
2	本当の私とはⅠ 自尊感情	2	
3	本当の私とはⅡ 感情と健康	3	
4	相手と親しくするにはⅠ コミュニケーション	4	
5	相手と親しくするにはⅡ 依頼と承諾	5	
6	もて男、もて女であるにはⅠ 恋愛の法則	6	
7	もて男、もて女であるにはⅡ 恋愛の進展	7	
8	みんなの力で達成するにはⅠ 集団の力	8	
9	みんなの力で達成するにはⅡ 組織の力	9	
10	見えない情報圧力とはⅠ 消費行動	10	
11	見えない情報圧力とはⅡ 群衆心理	11	
12	ストレス社会をしなやかにⅠ ケータイ、ネット依存	12	
13	ストレス社会をしなやかにⅡ いじめ	13	
14	小論文作成	14	
15	小論文発表会・意見交流	15	

<b>授業外学習内容とその時間</b>	新聞やメディアなどを活用し、時事問題に着目。 ノートに記録し、講義内活動に活用。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	毎回の講義内容について、自らの思考判断を10分で400時に表現する。 質問等については、次回までに個別または全体に指導する。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート	45%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	45%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	随時、資料を配布する。
<b>参考文献・推薦図書</b>	「本当にわかる心理学」植木理恵著 日本実業出版社、「よくわかる社会心理学」小口孝司著 ナツメ社
<b>関連のある授業科目</b>	
<b>資格等</b>	なし

科目名

# 日本国憲法

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／選択必修》

担当者

原田 八重

実務経験

税理士事務所に勤務

授業の概要

日本国憲法の基本構造、基本原理等について講義。  
幼稚園教諭免許の取得後、身近に感じられるような判例を中心に講義。

到達目標

経済的、政治的状況の変化に応じ憲法意識が変化している今日において、  
憲法を学ぶことで、自分の考え方をしっかりとめるようになる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所の条文を読んでおくこと。  
事後学習として、レジュメ及びノートに目を通し、復習を行うこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	法の意義
2		2	日本国憲法の歴史
3		3	憲法9条
4		4	人権の享有主体性
5		5	幸福追求権と法のもとの平等
6		6	思想良心の自由と表現の自由
7		7	表現の自由
8		8	経済的自由権
9		9	社会権
10		10	人身の自由
11		11	人権のまとめ
12		12	国会
13		13	裁判所
14		14	内閣
15		15	憲法まとめ

<b>授業外学習内容とその時間</b>	授業前予習30分、復習30分		
<b>課題のフィードバック方法</b>	毎回講義の後半に問題を出し、答えを講義する。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験	70%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	15%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	15%	教室外学習	
その他		その他 ケースメソッド	有

<b>テキスト</b>	講義毎にレジユメを作成して配布
<b>参考文献・推薦図書</b>	「基本法学入門」蓮井良憲・畑博之 有信堂高文社
<b>関連のある授業科目</b>	教育制度論
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許

科目名

# 情報機器演習

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／幼免必修》【2クラス開講】

担当者

村上幸生

実務経験

授業の概要

Windows10およびOffice2016を利用し、コンピュータの基本的な知識を学ぶとともにWord、Excel、PowerPointの基本操作の解説と演習を行うことにより、保育者として身に付けておくべき情報機器操作技術を習得する。

到達目標

コンピュータの基本的な操作とオフィススイートの操作ができる。また、インターネットおよびスマートフォンを利用した基本的な情報処理操作ができる。

事前事後学習

演習中に行う演習については、時間内に終わらない場合は必ず次の演習までに終えておくこと。また、数回の課題提出をしてもらうので必ず提出すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期・後期 (※1クラス半期30コマ)	回	前期・後期 (※1クラス半期30コマ)
1	パソコンの基礎知識・基礎操作	16	Word 園だよりの作成4
2		17	Excel 簡単な表の作成、よく利用する関数の使い方
3	インターネット、eメール、スマートフォンなど	18	
4		19	
5	Word 文章の入力・文字の装飾	20	PowerPoint プレゼンテーションの作成1
6		21	
7	Word 基本的なビジネス文書	22	PowerPoint プレゼンテーションの作成2
8		23	
9	Word 園だよりの作成1	24	PowerPoint プレゼンテーションの作成3
10		25	
11	Word 園だよりの作成2	26	動画の作成1
12		27	
13	Word 園だよりの作成3	28	動画の作成2
14		29	
15	Word 園だよりの作成4	30	

<b>授業外学習内容とその時間</b>	学習支援ポータルを利用して講義前に予習、講義後に復習それぞれ30分		
<b>課題のフィードバック方法</b>	学習支援ポータルを利用して行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	
その他(演習課題)	70%	その他	

<b>テキスト</b>	学習支援ポータル上に配置
<b>参考文献・推薦図書</b>	学習支援ポータル上で紹介
<b>関連のある授業科目</b>	
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許

科目名

# キャリアスタディ

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／卒業必修》

担当者

幼児保育学科教員

実務経験

授業の概要

本演習は保育士、幼稚園教諭、福祉施設職員としての資質や能力及び倫理観を育成し、保育等の現場で力を発揮できる人材を育成することを第一の目的である。その目的達成のため、これまでの学習の省察、マナー・生活態度など社会人としての基本的姿勢の形成、漢字テストや文章作成技術等基礎学力の強化などを図る。また各種ガイダンスにおいては、保育・教育等の就業意識を深め、実践的な就職スキル向上を目指す。

到達目標

- ・現場で活躍できる保育士・教諭等としての資質・能力・倫理観等を習得する。
- ・保育技術など保育実践で活用できる専門的な知識・技術を習得する。
- ・就職活動経験を通し、社会人としてのマナーや成果態度を習得する。
- ・キャリア意識の形成など、幅広い視野、将来の展望について説明できる。

事前事後学習

提示する資料などを授業前後にしっかり読み、学習に臨むこと。講義を通じて、社会の動向を察知し、社会人に求められる職業倫理への意識を高めてほしい。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	16	
2	就職につながる大学での学び(学習・生活面等)	17	
3	キャリアデザインを描く	18	
4	社会人の私を描く	19	
5	社会人に求められる人材とは	20	
6	就職ガイダンス①(就職試験対策前編)	21	
7	就職ガイダンス②(就職試験対策後編)	22	
8	キャリアを築く自己の振り返り	23	
9	専門職ガイダンス①(福祉・教育現場Ⅱ)	24	
10	専門職ガイダンス②(福祉・教育現場Ⅲ)	25	
11	就職活動(自主実習)の流れと求人票の見方	26	
12	就職までのスケジュール	27	
13	履歴書作成について①	28	
14	履歴書作成について②	29	
15	学習のまとめ	30	

<b>授業外学習内容とその時間</b>			
<b>課題のフィードバック方法</b>	配布された資料の整理及び、指定される期日までに記入する。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート	40%	プレゼンテーション	有
小テスト	30%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	有
その他		その他	

<b>テキスト</b>	適宜資料を配布する。
<b>参考文献・推薦図書</b>	紙透雅子編「保育の道をめざす人へのアドバイス 改訂版 養成校での学び方から就職活動まで」みらい、2016年。
<b>関連のある授業科目</b>	卒業、幼稚園教諭二種免許・保育士資格を得る上での、必修科目と関連する
<b>資格等</b>	保育士資格・幼稚園教諭二種免許

科目名

# 国語表現法

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／卒業必修》

担当者

山本八重子

実務経験

授業の概要

学生の表現(特に書く、読む)力の低下は否めない。その表現への抵抗を少しでも取り除いて国語による表現力を高めるために、基礎となる読解力・論理的思考力(主張と根拠と理由)・文章構成力・正しく表記する力等をつけることが課題である。本講義では小論文、感想文、手紙文の書き方や詩歌、随想、児童文学を取り上げる。「書く」活動では新聞のコラムの書写、「読む」活動では朗読や読み聞かせ等を実施する。

到達目標

○文章を正しく理解し読解力や情緒力をつけることができる。  
○小論文を書くとき段落構成を考えて主張とその根拠・理由付け・具体例を記述することができる。  
○語彙を増やし正しい表記をすることができる。「反省並びに感想」を添削指導する。また、コラムの書写をさせて評価の一つとしたい。

事前事後学習

ノートは必ず持参し配布されたプリントや資料はノートに貼り保存すること。また、講義を欠席した場合はプリントや資料を取りに来ることを徹底する。5回と10回は終了後ノートを提出すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	○
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(表現力とは何だろう)	16	
2	自己紹介の仕方(原稿用紙の使い方 挨拶)	17	
3	文章表現(基礎編)原稿用紙の使い方、正しい表記	18	
4	実習礼状など手紙・はがきの書き方(敬語の使い方)	19	
5	実習日誌の書き方 コラム書写	20	
6	小論文と感想文の比較 原稿用紙 コラム書写	21	
7	小論文・感想文の比較と書き方 コラム書写	22	
8	小論文・感想文の比較と書き方 コラム書写	23	
9	文章表現(応用編)、演習問題	24	
10	随筆(エッセイを読み取る力)『春宵十話』	25	
11	詩歌と出会う(詩)	26	
12	絵本の世界 絵本は心の栄養	27	
13	絵本の世界 朗読 課題提示	28	
14	絵本の世界 朗読 課題提出	29	
15	国語表現法のまとめ	30	

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法	課題について小論文にまとめた作品を添削して返却する。		
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	有
レポート	60%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『保育者になるための国語表現』田上貞一郎
参考文献・推薦図書	新聞 コラム提示
関連のある授業科目	
資格等	幼稚園教諭2種免許

科目名

# 教育原理

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

惟任泰裕

実務経験

授業の概要

本講義では、「教育」という営みを理解するための基礎的作業として、歴史を紐解きながら、その理念や思想などについて学ぶ。その際には、「教師と子ども」という関係だけでなく「学校と家庭」「教師と親」「社会と子ども」といった諸関係のなかで「教育」を把握することをめざす。加えて代表的な教育家の思想と実践について、歴史的な脈において理解を深める。講義の前半は主として戦前の教育を取り扱い、後半では戦後教育の歴史的・思想的展開についてみていくこととする。

到達目標

- ・教育に関する基本的な諸概念を身につけ、教育の意義や目的を理解している。
- ・家庭・社会・学校、大人・教師・子どもなどの関係性において教育を把握している。
- ・教育の歴史や思想についての知識を獲得している。
- ・教育における理念や思想と実践との関係性について理解している。

事前事後学習

- ・指定した文献やレジュメ等を授業前後で読み、理解を深めていくこと。
- ・ワークシートについては授業内で作業することが多いが、課題として配布し、その記入と提出を求める場合がある。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	○
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション—教育原理をめぐる問い	1	
2	「教育」とは何か—教育学の基礎概念	2	
3	家庭と社会の「子育て」と「教育」—教育と形成、発達	3	
4	「子ども」の発見—ルソーの教育思想	4	
5	近代教育制度の成立—「学校」の誕生	5	
6	「幼稚園」の成立—ペスタロッチからフレーベルへ	6	
7	日本における近代学校の導入—明治国家と教育	7	
8	「幼稚園」の展開と改善—倉橋惣三を中心に	8	
9	戦後改革と教育理念—日本国憲法と教育基本法	9	
10	幼児教育の目的と方向—「幼稚園教育要領」の成立	10	
11	教育実践の展開—海卓子と畑谷光代	11	
12	教育方法の探求—生活集団からレジジョエミリアまで	12	
13	子どもの人権—コルチャックと「子どもの権利条約」	13	
14	「認定こども園」の成立—幼保一元化へ向けて	14	
15	講義のまとめ—現代の教育課題への視座	15	

<b>授業外学習内容とその時間</b>	事前学習としては、授業内で指示した課題を行う(1時間)。 事後学習としては、授業内で配布した資料の復習を行う(2時間)。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	フィードバックについては、授業内で全体と共有しながら適宜行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験	50%	ディスカッション	
レポート	40%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	随時、レジюме・資料を配布する。
<b>参考文献・推薦図書</b>	「日本における保育園の誕生—子どもたちの貧困に挑んだ人びと」 宍戸健夫 新読書社 2014年 「子どもたちの100の言葉」 レジジョ・チルドレン 日東書院本社 2012年 ※その他、授業中に随時紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	保育原理、保育者論、教育制度論
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許、保育士資格

科目名

# 教育制度論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／幼免必修》

担当者

惟任泰裕

実務経験

授業の概要

教育という営みを支え、ときには縛りもかける、制度について検討する。まず、公教育の理念と関連する法規をとりあげ、学校制度の構造を捉える。併せて学校体系の成り立ちを確認し、我が国と諸外国の制度比較も行う。次に、教育行政の理念と仕組み、教育費についてとり上げる。学校の動きに視点を置き、開かれた学校づくりの経緯を、評価制度とともに捉える。その際、地域における協同活動についても確認する。また、学校安全の方法も事例を通して学ぶ。最後に幼児教育・保育をはじめとする教育制度の課題について整理し、考察を行う。

到達目標

- ・公教育の原理及び理念を理解している。
- ・教育制度を構成している教育関係法規を理解している。
- ・教育行政の理念・仕組みを理解している。
- ・学校改革の動向と学校安全について理解している。
- ・教育制度が直面する課題に対する関心を持っている。

事前事後学習

- ・指定した文献やレジュメ等を授業前後で読み、理解を深めていくこと。
- ・ワークシートについては授業内で作業することが多いが、課題として配布し、その記入と提出を求める場合がある。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	○
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	教育の理念と目的－教育基本法
3		3	義務教育の意味と仕組み
4		4	学校制度の歴史的展開と学校体系
5		5	諸外国の教育制度
6		6	教育委員会制度の理念
7		7	教育委員会制度の仕組み
8		8	文部科学省の役割
9		9	教育財政－公費と私費
10		10	開かれた学校づくりと評価
11		11	地域学校協働活動
12		12	危機管理と学校安全
13		13	教育制度課題①認定子ども園の制度化
14		14	教育制度課題②格差社会と貧困
15		15	講義のまとめ

<b>授業外学習内容とその時間</b>	事前学習としては、授業内で指示した課題を行う(1時間)。 事後学習としては、授業内で配布した資料の復習を行う(2時間)。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	フィードバックについては、授業内で全体と共有しながら適宜行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験	50%	ディスカッション	
レポート	40%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	随時、レジюме・資料を配布する。
<b>参考文献・推薦図書</b>	「要説教育制度 新訂第三版」教育制度研究会 学術図書出版社 2011年 「日本の貧困－日本の不公平を考える」阿部彩 岩波新書 2008年 ※その他、授業中に随時紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	保育原理、保育者論、教育原理
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許

科目名

# 教育方法論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／幼免必修》

担当者

岡山愛子

実務経験

幼稚園に勤務

授業の概要

この授業では、教育・保育の「方法論」について学ぶ。保育の仕事は、一見、子どもと遊んでいるだけのようにも見えるが、そうではない。保育者は子どもの育ちにおいて、遊びを視野に入れておく必要がある。ここでは、子どもの育ちを支援する教育・保育を行うための方法について総論(総合)的に学ぶ。

到達目標

- ・子どもの「遊び」についての理解を深める。
- ・子どもの育ちに影響を与える多様な教育・保育方法のあり方についての理解を深める。

事前事後学習

毎授業前に指定する箇所の「幼稚園教育要領」を読んでおくこと。  
講義の内容に対しての考えを整理し、レポートに記述し提出する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション:授業の概要説明	16	
2	保育の基本と保育方法	17	
3	幼児理解とその方法	18	
4	環境の構成と保育の展開	19	
5	一人一人に応じた指導	20	
6	保育の質と評価	21	
7	遊びの指導、アクティブラーニング	22	
8	生活の指導	23	
9	豊かな体験と園行事	24	
10	小学校との連携	25	
11	様々な指導形態	26	
12	保育者に求められる専門性	27	
13	学び合い育ち合うクラスづくり	28	
14	児童文化財と保育	29	
15	まとめ	30	

授業外学習内容とその時間	
課題のフィードバック方法	レポート課題を添削し、講義の際、学生に返却する。
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>
定期試験	70%
レポート	10%
小テスト	
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%
平常点・授業への貢献度	10%
その他(課題提出)	
	<b>アクティブラーニング</b>
	ディスカッション
	プレゼンテーション
	スピーチ
	ロールプレイ
	教室外学習
	その他
	<b>有無</b>
	有
	有
	有
	有
	無

テキスト	保育方法論(光生館) 神長美津子、津金美智子、五十嵐市郎編著
参考文献・推薦図書	随時、紹介する。
関連のある授業科目	保育課程論等
資格等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# 保育臨床相談

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／幼免必修》

担当者

森上真由美

実務経験

授業の概要

保育現場で見られる様々な問題についての事例を取り上げ、問題の捉え方、援助の方法を検討していく。具体的には、発達心理学、臨床心理学等の理論的背景をもとに、自ら考える機会や、グループ・ディスカッション等を通して、保育実践上、有益な知見を深める。

到達目標

・子どもや保護者が抱える心理的問題を理解し、基本的対応について学ぶ。  
・保育現場で起こる様々な問題への対応について、自ら考える力を養う。

事前事後学習

授業後には配布したプリントやノートを整理しまとめておく。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		16	オリエンテーション(講義の目的と目標)
2		17	子どもの発達への援助
3		18	子ども理解の意味と方法
4		19	カウンセリングの理論と方法
5		20	カウンセリングの実践
6		21	園における教育相談の意義と活用
7		22	登園拒否の理解と指導
8		23	社会性の発達とそのつまづきへの理解と対応
9		24	遊びの意義と教育相談
10		25	発達障害の理解
11		26	子育て支援のあり方
12		27	園等における保護者への支援
13		28	地域社会・関係機関との連携
14		29	保育者のメンタルヘルス
15		30	講義全体のまとめ

<b>授業外学習内容とその時間</b>	授業前予習30分、復習30分			
<b>課題のフィードバック方法</b>	毎回の講義において、講義内容に関するテーマで簡単なレポートを作成、提出。翌講義の最初に全体を通してフィードバックする。			
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>	
定期試験	70%	ディスカッション	有	
レポート		プレゼンテーション	無	
小テスト		スピーチ	無	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	有	
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	無	
その他		その他		

<b>テキスト</b>	子育て・保育カウンセリングワークブック 清水勇 阿部裕子 学事出版
<b>参考文献・推薦図書</b>	地域における保育臨床相談のあり方 一般社団法人日本保育学会保育臨床相談システム検討委員会編 ミネルヴァ書房
<b>関連のある授業科目</b>	保育の心理学Ⅱ、臨床心理学
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許

科目名

# 教育実習

《4単位(実習)／幼児保育学科2年通年／幼免必修》

担当者

惟任泰裕

実務経験

授業の概要

大学で学んだ理論や知識が、いかに幼稚園等での教育・保育の内容・機能と関わっているかを知り、生きた実践の場で具体的な保育方法等について学ぶ機会とする。また、子どもとの関わりを通して、実習生自身が様々な働きかけを行うことにより、自らの教育・保育についての考えを深め、必要な技術を身に付ける機会とする。なお実習との前後に行われる教育実習指導において事前・事後指導を行い、幼稚園等での教育・保育に対する課題や認識を明確にしていく。

到達目標

- ・幼稚園等の生活に参加し、園の方針や一日の流れを理解している。
- ・保育全般に参加し、保育技術を習得している。
- ・子どもの個人差についての理解を深め、対応方法を学んでいる。
- ・安全及び疾病予防への配慮について理解している。
- ・保育の計画、実践、観察、記録、自己評価等について実際に取り組み、理解を深めている。
- ・職員間の役割分担や連携について理解している。
- ・保護者支援や地域社会等との連携について総合的に学んでいる。
- ・幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化している。

事前事後学習

前半の教育実習では、観察実習を中心に行う。そのため、大学で学んだ理論・知識の整理を行い、観察の視点を養い、実習に臨むことを求める。その際、教育実習指導内での目標作成を通じて、明確な課題意識をもつ。実習の事後には、目標や実習日誌を振り返ることで、実習で得た学びや課題を明確にする。後半の教育実習では、前半の教育実習を踏まえて、改めて参加実習を念頭にした課題を設定し、教材研究を経て実習に臨む。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	○
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	
2	6月	2	11月
3	幼稚園・幼保連携型認定こども園実習	3	幼稚園・幼保連携型認定こども園実習
4	10日間	4	10日間
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他	100%	その他	

テキスト	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
参考文献・推薦図書	適宜、紹介する。
関連のある授業科目	教育実習指導、保育・教職実践演習(幼稚園)
資格等	幼稚園教諭二種免許

科目名

# 教育実習指導

《1単位(演習)／幼児保育学科2年通年／幼免必修》

担当者

惟任泰裕

実務経験

授業の概要

大学で学んだ理論や知識を、教育・保育という実践の場で具体的に活用するための方法について学習する。また、実習に向けての準備、実習の反省等を通して、子どもとの関わり方や、実習生自身が行う様々な働きかけを省察し、自らの教育・保育についての考えを深める。さらに、実習の前後に事前・事後指導を行い、幼児教育・保育に対する課題や認識を明確にしていく。

到達目標

- ・幼稚園での生活を学び、一日の流れを理解している。
- ・子どもの個人差についての理解を深め、対応方法を学んでいる。
- ・保育の計画、実践、観察、記録、自己評価等について基本的な事項を学び、実習に備えている。
- ・保護者支援や地域社会等との連携について総合的に学んでいる。
- ・安全及び疾病予防への配慮について理解している。
- ・幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化している。

事前事後学習

教育実習指導の事前・事後学習としては、講義・演習時に指定された課題に取り組むことを重要視する。また、分からないことは教員に積極的に尋ねるよう要請する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	○
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業オリエンテーション	16	
2	実習の意義・目的、目標の設定	17	
3	指導案の書き方	18	
4	実習記録の書き方	19	
5	教材研究(1)模擬設定保育(絵本の読み聞かせ)	20	
6	教材研究(2)模擬設定保育(表現活動)	21	
7	教育研究(1)保健・安全への配慮	22	
8	実習オリエンテーション	23	
9	実習反省会(前期)	24	
10	教材研究(3)模擬設定保育(主活動の導入)	25	
11	教材研究(4)模擬設定保育(主活動)	26	
12	教育研究(2)保護者等との連携	27	
13	実習オリエンテーション	28	
14	実習反省会(後期)	29	
15	実習の振り返り	30	

<b>授業外学習内容とその時間</b>	事前学習としては、授業内で指示した課題を行う(1時間)。 事後学習としては、授業内で配布した資料の復習を行う(2時間)。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	フィードバックについては、授業内で全体と共有しながら適宜行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	60%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	40%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の他、随時資料を配布する。
<b>参考文献・推薦図書</b>	適宜、紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	教育実習、教職(幼稚園)・保育実践演習
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許

科目名

# 教職(幼稚園)・保育実践演習

《2単位(演習)／幼児保育学科2年後期／保育士・幼免必修》

担当者

森本直樹・山本八重子・宮崎由紀子・  
中富尚宏・塩見一成・惟任泰裕

実務経験

授業の概要

本演習は、保育者としての準備性を高めるために、これまでの学修や実習を振り返り、自己の課題を把握するとともに、必要に応じて不足する知識・技能の修得を目指すものである。具体的には、保育者としての役割理解の深化、対人関係でのスキル獲得、幼児・人間理解の姿勢・思考術の向上、教材研究も含めた保育技術の研鑽等が挙げられる。

到達目標

- ・幼稚園教諭・保育士としての倫理観を理解し、責任感を養っている。
- ・保育者の基礎として、また保育者間、保護者・他機関との協働を視野に、対人関係能力に関わる理解を深め、スキルを習得している。
- ・指導案の作成、教材研究などを通して、保育に求められる知識、教養および技術を修得している。
- ・現代的な保育課題を理解し、それらに対処する上での基礎的な観点・思考術を得ている。

事前事後学習

履修カルテの整理を随時行う。演習を通して、明確にされた自己課題への取り組みを継続的に行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	○
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーションー学習の振り返り
2		2	対人関係理解とスキル獲得への一歩
3		3	保育技術の育成①
4		4	保育技術の育成②
5		5	保育技術の育成③
6		6	教職の意義と役割(外部講師)
7		7	幼稚園・保育所・認定こども園の学級経営
8		8	全実習の振り返りとこれからの課題の検討
9		9	保育技術の育成④
10		10	保育士の役割と倫理(外部講師)
11		11	保育者間の連携を図るロールプレイング
12		12	現代における保育の課題検討①
13		13	現代における保育の課題検討②
14		14	現代における保育の課題検討③
15		15	本演習の総括と反省会

<b>授業外学習内容とその時間</b>	事前学習としては、授業内で指示した課題を行う(1時間)。 事後学習としては、授業内で配布した資料の復習を行う(2時間)。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	フィードバックについては、授業内で全体と共有しながら適宜行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	60%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	40%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	随時、レジюме・資料を配布する。
<b>参考文献・推薦図書</b>	適宜、各回担当教員より紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	幼稚園教諭二種免許・保育士資格を得る上での、必修科目と関連する。
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# 子育て支援

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期／卒業選択必修》

担当者

宮崎 由紀子

実務経験

授業の概要

保育士の役割としては、子どものケアのみならず保護者への支援が業務として法的にも位置づけられている。

授業においては、保育士の専門性に基づく子育て(保護者)支援について理解し、日常的な保育や様々な地域場面における相談支援について概説する。あわせて、前期で学んだ「子ども家庭支援論」を相談援助として具体化していく基本的スキルを学んでいく。

到達目標

・保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。

・保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する

事前事後学習

事前学習として、次回授業に該当するテキストについて通読しておくこと。

事後学習として、保育実習、教育実習等で見聞きした現場保育士の相談支援を材料として自身の保育士としての課題について振り返りを実施する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技術の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1			保育と保護者支援
2			保護者との相互理解と信頼関係
3			支援ニーズへの理解と多面的な理解
4			子ども・保護者が多様な他者と関わる場の提供
5			支援の展開(状況・状態の把握)
6			支援の展開(計画)
7			支援の展開(実践・記録・評価・カンファレンス)
8			支援の展開(職員間の連携・協働)
9			支援の展開(関係機関との連携・協働)
10			支援の内容と方法(保育所)
11			支援の内容と方法(地域)
12			支援の内容と方法(障害のあるこどもと家庭)
13			支援の内容と方法(特別な配慮のあるこどもと家庭)
14			子ども虐待の予防と対応
15			多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験	50%	ディスカッション	
レポート	20%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『最新保育士養成講座』総括編集委員会編『最新保育士養成講座 第10巻 子ども家庭支援 家庭支援と子育て支援』全国社会福祉協議会 2019
参考文献・推薦図書	随時、紹介する
関連のある授業科目	社会福祉、子ども家庭支援論、こども家庭福祉
資格等	保育士資格

科目名

# 子どもの食と栄養

《2単位(演習)／幼児保育学科2年前期・後期／卒業必修》【2クラス開講】

担当者

稲田 美和子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

保育士が接する子どもたちは、日々休むことなく成長し続けている。その発育・発達を、最大限サポートして行くためには、成長の源である食べ物(栄養)についての理解を深め、豊かで健康な人々を育み、確保するために、保育に関わる専門家を目指す学生が栄養の重要性を学び、それを子育てに関わる人々に発信していけるように、講義・演習・課題を通して技術を習得させていく。

到達目標

食事は単なる栄養源だけではなく、美味しく食べることで、心をも育むものである。小児を含め、養育者に対して「食育」が行える「保育士」として、知識を習得させる。また、自分自身の健康管理から、正しい食生活が送れるような生活習慣の改善に結びつける

事前事後学習

授業には、教科書を必ず持参し、授業中は、資料に記載してある重要項目を必ず見直し、重要部分はテックしておく。調理実習では、調理の基本を理解し、安心・安全でおいしい料理を作ることを念頭において行うこと。演習では、グループで、食育媒体作成と発表を行うため、かねてより班のメンバーとの友好を築いておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	○
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期・後期	回	前期・後期
1	1、子どもの健康と食生活の意義	16	実習〔離乳食を作ろう〕
2	調理実習オリエンテーション	17	D子どもの発育・発達と食生活(幼児期)
3	2、A、栄養の基本的概念と食事摂取基準	18	実習(保育所給食P178の料理)
4	実習(朝ご飯をつくろう)	19	D子どもの発育・発達と食生活(学童期)
5	B、栄養の基本的知識1～2	20	実習(学校給食の献立)
6	実習(20歳女子の1日の献立)	21	4、食育の基本と内容1～2
7	B、栄養の基本的知識3～4～5	22	実習〔保育園児のお弁当〕
8	実習(幼児期の食事)1～2歳	23	食育の基本と内容3～6
9	3、子どもの発育・発達と食生活A	24	実習(行事食・七夕・クリスマス・おせちなど)
10	演習・栄養評価(BMI)とおやつ	25	5、家庭や児童福祉施設における食事と栄養
11	B子どもの発育・発達と食生活(胎児期)	26	実習〔保育所給食(お誕生会メニュー)〕
12	実習(妊娠期の食事)	27	6、特別な配慮を要する子どもの食と栄養
13	C子どもの発育・発達と食生活(乳児期)	28	演習〔保育園での食育媒体を作成〕
14	実習(授乳期の食事)タンパク質・葉酸	29	演習〔保育園での食育媒体を作成〕
15	子どもの発育・発達と食生活(離乳期)	30	演習〔食育媒体の発表〕

<b>授業外学習内容とその時間</b>	授業には、教科書を必ず持参し、準備された資料に目をとおし、講義中は重点項目をチェックする。また、実習には必ず授業開始前に、エプロン・三角巾を着衣し、手拭き用タオルを持参し、所定の履物に変え、手洗い、消毒を済ませる。授業後は履物はきちんと揃えて所定の場所に置く。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	各論の講義終了のまとめとして、保育所における「食育媒体」を作成させ、各班毎にその成果を、発表させる。発表後に、その内容を各班毎に評価させる。また、教師は、媒体の成果を評価し、将来、園で行う「食育」の実技ができるようにしたい。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート(演習)	10%	プレゼンテーション	
製作物	10%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	10%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	「最新 子どもの食と栄養」 編著 学建書院
<b>参考文献・推薦図書</b>	「見てわかる！栄養の図解辞典」中村丁次 「新食品成分表2020年版」 文部科学省学術審議会
<b>関連のある授業科目</b>	乳児保育Ⅰ・子どもの保健・子どもの健康と安全
<b>資格等</b>	保育士資格

科目名

# こども家庭支援論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／卒業選択必修》

担当者

宮崎 由紀子

実務経験

授業の概要

保育者は対人援助職であり、子どもへの支援のみならず家庭や家族支援に係ることが求められる。こども家庭支援を実践するための社会資源の理解と求められる姿勢について学んでいく。

到達目標

- ・子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する
- ・保育の専門性を生かしたこども家庭支援の意義と基本について理解する
- ・子育て家庭に対する支援の体制について理解する
- ・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開とこども家庭支援の限所、課題について理解する

事前事後学習

事前学習として、次回授業に該当するテキストについて通読しておく。事後学習については、授業中のミニテストにて振り返り、課題(レポート等)についてまとめること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	○
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	子ども家庭支援の意義と必要性		
2	子ども家庭支援の目的と機能		
3	保育者の専門性を生かした子ども家庭支援		
4	子どもの育ちの喜びの共有		
5	保護者や地域の子育て支援		
6	保育者に求められる基本的態度		
7	家庭の状況に応じた支援		
8	地域資源の活用と自治体・関係機関との連携		
9	子ども家庭の福祉を図るための社会資源		
10	子育て支援政策・次世代育成支援施策		
11	子どもかて支援の内容		
12	保育所を利用する子ども家庭への支援		
13	地域の子育て家庭への支援		
14	要保護児童とその家庭に対する支援		
15	子ども家庭支援に関する現状と課題		

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験	60%	ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト	20%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

テキスト	『最新保育士養成講座』総括編集委員会編『最新保育士養成講座 第10巻 子ども家庭支援 家庭支援と子育て支援』全国社会福祉協議会 2019
参考文献・推薦図書	随時、紹介する
関連のある授業科目	こども家庭福祉、社会福祉、子育て支援、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ・Ⅲ
資格等	保育士資格

科目名

# こどもの音楽遊び

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期／保育総合コース選択》

担当者

田邊裕子

実務経験

授業の概要

子ども一人ひとりの成長・発達の特性に合った表現活動ができる保育者を指すために、創造豊かな音楽遊びが展開できる感性豊かな保育者を育てることを目的とする。  
幼児期における生活と遊びの中で創造的・即興的な表現活動を通して、発展的な展開方法や指導方法を学ぶ。豊かな感性や表現する力を養うために、基礎的な音楽の知識や技術を習得し、保育現場で応用できるこどもの音楽遊びを研究する。個人およびグループによる主体的な活動に取り組むことにより、こどもの発達・成長に応じた音楽遊びの展開方法を学び実践する。

到達目標

- ・子どもの生活や遊びを通して実践する音楽活動を理解する。
- ・子どもの成長に合わせた音楽遊びの工夫や指導方法を習得する。
- ・グループ活動における学生相互の学び合いにより、主体的な音楽遊びの展開ができる。

事前事後学習

毎回の授業課題の準備のために、前もってピアノの弾き歌いなどの練習等を重ねることが必要である。日頃から子どもの音楽遊びに対する興味を持ち事例を収集しておくこと。  
授業後には、課題のために準備した資料や作品を整理しまとめておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	こどもの生活と音楽あそび
3		3	園の行事と音楽活動
4		4	手づくり楽器とこどもの遊び
5		5	季節(春)の歌あそび
6		6	季節(夏)の歌あそび
7		7	季節(秋)の歌あそび
8		8	季節(冬)の歌あそび
9		9	ハンドベル演奏(クリスマスバージョン1)
10		10	ハンドベル演奏(クリスマスバージョン2)
11		11	こどもの遊びと楽器
12		12	楽器あそび(合奏1)
13		13	楽器あそび(合奏1)
14		14	音楽遊びのグループ発表
15		15	まとめと振り返り

<b>授業外学習内容とその時間</b>	毎回の授業計画に合わせて予習をしておくこと。授業後は、内容をまとめ復習し、次回授業に備える。各自専用ファイルを用意し、授業で配布したプリントや楽譜類を綴じ整理すること。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	個人やグループによる課題発表体験により、相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	50%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	50%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	適宜、資料や楽譜を配布する。
<b>参考文献・推薦図書</b>	「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子編著 権歌書房、「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著音楽之友社、「幼児のための音楽教育」神原雅之ほか編著 教育芸術社、その他、適宜紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	こどもと表現、保育内容【表現Ⅰ】、教育実習、保育実習など
<b>資格等</b>	保育士資格

科目名

# 子どもの造形遊び

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／保育総合コース選択》

担当者

森本直樹

実務経験

授業の概要

造形遊びは、幼児の造形表現全体を包括するものであり、子どもの主体的な学びを促し、学ぶ楽しさを味わう。子どもと環境の関わりを持ち、遊びを通して自ら経験をすることで発見し、創造的な表現力を養う必要がある。ここでは、豊富な材料経験や保育者自身の感性や表現を豊かにし、表現技法及び、保育技術を習得することを目標とする。

到達目標

- ・造形遊びの意義と目的を理解する。
- ・材料・素材の持つ魅力を探求し、思い付いたことを表現する。
- ・身近な場所や空間において、五感を認識して造形活動を行うことを理解する。
- ・実際に保育現場で役に立つ表現技法、保育技術の基礎を習得する。

事前事後学習

- ・指定された用具を持参すること。
- ・造形表現活動に関する題材や資料の収集をすること。
- ・授業内に作品が仕上がらない場合は、指定する期限までに完成させること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技術の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション:造形遊びとは	16	
2	造形遊びの基礎:描く活動①	17	
3	造形遊びの基礎:描く活動②	18	
4	造形遊びの基礎:作る活動①	19	
5	造形遊びの基礎:作る活動②	20	
6	造形遊びの援助①:素材研究	21	
7	造形遊びの援助②:活動研究、指導案作成	22	
8	造形遊びの援助③:模擬保育	23	
9	造形遊びの援助④:振り返り	24	
10	造形遊びにおける身近な素材研究	25	
11	造形遊びの応用:教材づくり	26	
12	造形遊びの応用:指導案作成	27	
13	造形遊びの応用:協同制作①(計画、制作)	28	
14	造形遊びの応用:協同制作②(制作、発表)	29	
15	まとめ:振り返り(ワークシート、レポート作成)	30	

<b>授業外学習内容とその時間</b>	毎回の授業計画に合わせて教科書を使い予習・復習を1時間程度しておく。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	課題作品完成後、作品、ワークシートなどのポートフォリオを作成しておくこと。ポートフォリオの作成については、授業内で説明をする。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート	20%	プレゼンテーション	有
課題等提出物	50%	スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	有
その他		その他	

<b>テキスト</b>	『保育内容 表現(第2版)』 編著 中川香子・清原知二 みらい
<b>参考文献・推薦図書</b>	『新造形表現 実技編』 編著 花篤 實・岡田愨吾 三晃書房
<b>関連のある授業科目</b>	保育実習指導法、保育内容(全教科)など
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# 幼児造形

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期／保育総合コース選択》

担当者

森本直樹

実務経験

授業の概要

表現活動は、幼児の発達段階において素朴な表現を見出すことは、保育者の受け止め方により、幼児に与える反応に違いが出てくる。幼児に豊かな感性や創造性を育むためには、表現することの楽しさを実感させる必要がある。また、生み出す要因について学び、分析する必要がある。生活の中からの経験をとおして、五感で捉え、素材の持つ特性を生かすためには、保育者自身の体験し、学んだ感覚により、幼児の表現力を高めることができる。また協同活動を体験することでコミュニケーション能力を身につける。

到達目標

- ・幼児の発達段階における表現活動を理解する。
- ・領域「表現」における活動内容について、位置付けができる。
- ・自ら、表現することの楽しさを実感し、楽しさから生まれる要因について分析する。
- ・様々な表現の基礎的な知識・技能を生かし、幼児の表現活動に展開できる。
- ・協働して表現することに、他者の意見などに共感し、豊かな感性について理解する。

事前事後学習

- ・指定された用具を持参すること。
- ・造形表現活動に関する題材や資料の収集をすること。
- ・授業内に作品が仕上がらない場合は、指定する期限までに完成させること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		16	オリエンテーション: 幼児の発達と表現
2		17	領域「表現」活動①: 造形表現を楽しむ
3		18	領域「表現」活動②: 色彩構成・配色理論
4		19	領域「表現」活動③: 生活の中にあるものを表現する
5		20	協同制作①: 造形表現(素材研究、計画)
6		21	協同制作②: 造形表現(制作)
7		22	協同制作③: 造形表現(制作、展示)
8		23	イメージ表現活動①: 計画、制作□
9		24	イメージ表現活動②: 制作□
10		25	イメージ表現活動③: 制作、発表□
11		26	造形表現活動①: 保育教材制作(素材研究、制作計画)
12		27	造形表現活動②: 保育教材制作(制作)
13		28	造形表現活動③: 保育教材制作(制作、指導案)
14		29	造形表現活動④: 保育教材制作(発表)
15		30	まとめ: 振り返り(ワークシート、レポート作成)

<b>授業外学習内容とその時間</b>	毎回の授業計画に合わせて教科書を使い予習・復習を1時間程度しておく。		
<b>課題のフィードバック方法</b>	課題作品完成後、作品、ワークシートなどのポートフォリオを作成しておくこと。ポートフォリオの作成については、授業内で説明をする。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート	20%	プレゼンテーション	有
課題等提出物	50%	スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	10%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	『保育内容 表現(第2版)』 編著 中川香子・清原知二 みらい
<b>参考文献・推薦図書</b>	『新造形表現 実技編』 編著 花篤 實・岡田愨吾 三晃書房
<b>関連のある授業科目</b>	保育実習指導法、保育内容(全教科)など
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

科目名

# こどもの遊びと運動学

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／保育総合コース選択》

担当者

塩見一成

実務経験

授業の概要

運動学の基礎知識を学び、子どもの運動能力を引き出す運動指導法の習得を目指す。また、運動遊びを計画する際に参考となる子どもの運動能力の実態を把握する手法について学ぶ。

到達目標

- ①子どもの運動意欲や多様な動きを引き出す指導法について述べるができる。
- ②他者の動きの観察を通じて適切なからだの動かし方に関心を持つようになる。
- ③様々な運動遊びの基礎的な技能を高める。

事前事後学習

授業中に準備する課題(実技テスト、レポート等)に対応するため、教科書の読み込み(予習・復習)を徹底すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	
V	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	16	
2	運動学Ⅰ:運動の楽しさについて	17	
3	運動学Ⅱ:動きを覚える意味	18	
4	運動学Ⅲ:運動の指導方法と知識	19	
5	運動学Ⅳ:動きの構造	20	
6	運動学Ⅴ:動きの力動性	21	
7	子どもの運動発達	22	
8	[コツ]と[アナログン]について	23	
9	身体知について	24	
10	模擬授業Ⅰ:運動遊びの授業用指導案作成	25	
11	模擬授業Ⅱ:運動遊びの指導案作成と模擬授業	26	
12	模擬授業Ⅲ:運動遊びの指導案作成と模擬授業	27	
13	模擬授業Ⅳ:運動遊びの指導案作成と模擬授業	28	
14	模擬授業Ⅴ:運動遊びの指導案作成と模擬授業	29	
15	まとめ	30	

<b>授業外学習内容とその時間</b>	前回の講義内容を配布資料を含めた上で理解し、他者に説明できるようにしておく。(目安時間:各回約2時間)		
<b>課題のフィードバック方法</b>	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート	30%	プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	50%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	有
その他		その他	有

<b>テキスト</b>	[新しい体育授業の運動学] 三木四郎編 大修館書店
<b>参考文献・推薦図書</b>	[器械運動と同感指導と運動学] 三木四郎編 大修館書店
<b>関連のある授業科目</b>	体育実技
<b>資格等</b>	保育士資格

科目名

# 臨床心理学

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／選択必修》

担当者

森上 真由美

実務経験

授業の概要

さまざまな臨床心理学の理論を学び、基本的な知識や技術を習得していく。ロールプレイやグループワーク、心理テスト等の体験を通じて、自己理解及び他者理解を深める。なお、この授業はピアヘルパー資格試験を受験するための必須科目である。

到達目標

・「こころ」について理解するために必要な知識、技術、心構えを学ぶ。  
・「気づき」からの思考や行動の変容を意識する。  
子どもと向き合う専門家として求められるコミュニケーションスキルを身につける。 ・子

事前事後学習

・授業後には配布したプリントやノートを整理しておく。  
学んだ技術を現場で活かせるようにまとめておく。 ・

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のI～Vの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
I	保育者としての基礎的教養の修得	
II	保育者としての基礎的技能の修得	
III	保育及び援助の目的の理解	
IV	保育及び援助の対象の理解	○
V	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	16	学校臨床
2	臨床心理学とは	17	臨床心理アセスメント
3	臨床動作法	18	心理テストの種類と分類
4	心の問題	19	心理テストの体験:作業検査法
5	心理学史	20	心理テストの体験:質問紙法①
6	フロイトの精神分析	21	心理テストの体験:質問紙法②
7	ユングの分析心理学	22	心理テストの体験:投影法①
8	エリクソンの発達課題	23	心理テストの体験:投影法②
9	ピアジェの発達段階説	24	精神医学①
10	ボウルビイの愛着理論	25	精神医学②
11	ロジャースのクライエント中心療法	26	ピアヘルパー対策①
12	ロールプレイ	27	ピアヘルパー対策②
13	グループワーク	28	ピアヘルパー対策③
14	行動主義心理学	29	ピアヘルパー対策④
15	認知行動療法	30	後期まとめ

<b>授業外学習内容とその時間</b>	授業前予習30分、復習30分		
<b>課題のフィードバック方法</b>	毎回の講義において、講義内容に関するテーマで簡単なレポートを作成、提出。翌講義の最初に全体を通して、フィードバックする。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験	70%	ディスカッション	無
レポート		プレゼンテーション	無
小テスト		スピーチ	無
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	有
平常点・授業への貢献度	30%	教室外学習	無
その他		その他	無

<b>テキスト</b>	「ピアヘルパーハンドブック」日本教育カウンセラー教会編 図書文化
<b>参考文献・推薦図書</b>	随時紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	保育の心理学Ⅱ、保育臨床相談
<b>資格等</b>	ピアヘルパー

科目名

# こどもの発達障害

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／こども心理コース選択》

担当者

中富尚宏

実務経験

授業の概要

現在の保育・教育現場において、非常に関心が高まっている、特別な配慮を要する子どもたちについて詳しく取り上げる。彼らとより良い関係を築くうえでのポイントなどを紹介し、子どもの育ちの支援において、実践的かつ有益な知見を得る機会も提供したい。

到達目標

- ・子どもの障がい(発達・精神)障害について、心理学や療育現場における知見を学ぶ。
- ・障がい児への具体的支援について理解を深める。

事前事後学習

授業配布資料、下記参考図書等を精読し、学習理解を深めること。  
教材制作等に必要の情報収集・検討を、授業の前後においてもおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	○
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(講義の目的と目標)・「発達」理解について	1	
2	発達の違いを理解する	2	
3	障がい特性の理解①自閉症スペクトラム(1)	3	
4	障がい特性の理解②自閉症スペクトラム(2)	4	
5	障がい特性の理解③注意欠如多動症(1)	5	
6	障がい特性の理解④注意欠如多動症(2)	6	
7	障がい特性の理解⑤学習症(1)	7	
8	障がい特性の理解⑥学習症(2)	8	
9	支援方法の理解①心の支援・発達論による支援	9	
10	支援方法の理解②行動への支援・環境調整による支援	10	
11	支援方法の理解③連携による支援	11	
12	支援方法を考える①アセスメント	12	
13	支援方法を考える②個別の教育支援計画	13	
14	支援方法を考える③ケーススタディ	14	
15	保護者支援を考える・講義全体のまとめ	15	

授業外学習内容とその時間			
課題のフィードバック方法			
成績評価方法	評価割合	アクティブラーニング	有無
定期試験		ディスカッション	
レポート		プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度		教室外学習	
その他		その他	

テキスト	「こんなとき、どうする?発達障害のある子への支援 幼稚園・保育園」内山登紀夫監修 ミネルヴァ書房
参考文献・推薦図書	「障害児保育ワークブック」星山麻木編著 萌文書林
関連のある授業科目	保育の心理学、子ども家庭支援の心理学、障害児保育
資格等	保育士資格

科目名

# 保育現場の人間関係

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／こども心理コース選択》

担当者

中富尚宏

実務経験

授業の概要

保育現場は、まさに人と人が出会い、かかわる場である。本演習では保育・教育現場で生じる対人関係上の様々な問題について、さらには虐待対応を含めたうえで、発達・社会・臨床心理学的側面より解説していく。また、グループワークや事例検討等も積極的に取り入れ、受講者自身のコミュニケーション・スキルの向上もはかりたい。

到達目標

- ・自分がどのような人間であるか自分自身を見つめ直す。
- ・保育現場におけるコミュニケーションについて理解を深める。
- ・保育者に必須である、対人関係における観点を広げる。
- ・保育者としての虐待対応の基本を学ぶ

事前事後学習

授業配布資料、下記参考図書等を精読し、学習理解を深めること。  
個人およびグループにて、課題等に必要な情報収集・検討を授業の前後においても行うこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	○
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(講義の目的と目標) 保育園では子ども虐待をどう捉えたらよいか	1	
2	子ども虐待対応における保育園の役割	2	
3	気づきと初期対応	3	
4	園内体制づくり	4	
5	見守りと記録	5	
6	通告・相談の手順	6	
7	関係機関との連携	7	
8	ケース離れと引き継ぎ	8	
9	事例検討①4人の子どもを抱える要支援家庭におけるネグレクト	9	
10	事例検討②強度の育児ストレスに悩む母親による不安定な養育	10	
11	事例検討③世代間連鎖するアタッチメント障害と虐待	11	
12	事例検討④発達障害を抱えたシングルマザーによるネグレクト	12	
13	事例検討⑤「言うことを聞かない子」への暴力をとまなう「しつけ」	13	
14	事例検討⑥若年ハイステップファミリーにおける第一子への虐待	14	
15	事例検討⑦離婚・再婚を繰り返す父母によるリスクを抱えた養育状況	15	

<b>授業外学習内容とその時間</b>	前回の講義内容を配布資料を含めたうえで理解し、他者に説明できるようにしておく(目安時間:各回約2時間)		
<b>課題のフィードバック方法</b>	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート		プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	80%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	保育者のための子ども虐待対応の基本 ひとなる書房
<b>参考文献・推薦図書</b>	「保護者のシグナル」観る聴く応える 保育者のためのコミュニケーションスキル 掛札逸美・加藤絵美 ぎょうせい
<b>関連のある授業科目</b>	保育の心理学、子ども家庭支援の心理学、保育内容【人間関係】
<b>資格等</b>	保育士資格

科目名

# 特別支援教育論

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／卒業・幼免必修》

担当者

中富尚宏

実務経験

科目

教育の基礎的理解に関する科目

施行規則に定める科目区分又は事項等

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

授業の概要

現在の保育・教育現場において非常に関心が高まっている特別の支援を必要とする子ども、及び、障がいはないが特別の教育的ニーズのある子どもについて詳しく取り上げる。また、LD、ADHD等の発達障がいのある子ども、視覚障害、知的障害等様々な障がいのある子どもの障がい特性を理解し、どのような支援が必要か理解を深める。

到達目標

- ・特別の支援を必要とする子どもの障害特性の理解について、心理学や療育現場における知見を学ぶ。
- ・特別の支援を必要とする子どもへの具体的な支援について、理解を深める。
- ・障害はないが、特別の教育的ニーズのある子どもの理解とその対応について学ぶ。

事前事後学習

- ・授業配布資料、下記参考図書等を精読し、学習理解を深めること。
- ・教材制作等に必要の情報収集・検討を、授業の前後においてもおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	○
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画 (項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(講義の目的と目標)・「発達」理解について		
2	発達の違いを理解する		
3	障がい特性の理解:自閉スペクトラム症の理解		
4	障がい特性の理解:自閉スペクトラム症への支援		
5	障がい特性の理解:注意欠如・多動症の理解		
6	障がい特性の理解:注意欠如・多動症への支援		
7	障がい特性の理解:限局性学習症の理解		
8	障がい特性の理解:限局性学習症への支援		
9	障がい特性の理解:視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等の理解		
10	障がい特性の理解:視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等への支援		
11	通常の学級における特別の教育的ニーズのある子どもの理解と支援		
12	支援方法の理解:心の支援・発達論による支援		
13	支援方法の理解:行動への支援・環境調整、連携による支援		
14	支援方法を考える:アセスメント		
15	支援方法を考える:個別の教育支援計画、講義全体のまとめ		

<b>授業外学習内容とその時間</b>	前回の講義内容を配布資料を含めたうえで理解し、他者に説明できるようにしておく(目安時間:各回約2時間)		
<b>課題のフィードバック方法</b>	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート		プレゼンテーション	有
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)	80%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	テキスト特別支援教育 クリエイトかもがわ
<b>参考文献・推薦図書</b>	「障害児保育ワークブック」星山麻木編著 萌文書林 「特別支援教育の理論と実践 I 概論・アセスメント」上野一彦他著 金剛出版
<b>関連のある授業科目</b>	保育の心理学、子ども家庭支援の心理学、障害児保育
<b>資格等</b>	幼稚園教諭二種免許

科目名

# 保育内容【健康】

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／卒業・保育士・幼免必修》【2クラス開講】

担当者

塩見一成

実務経験

科目

領域及び保育内容の指導法に関する科目

施行規則に定める  
科目区分又は事項等

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業の概要

保育現場での活動を通して育みたい幼児の資質・能力を理解し、領域「健康」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。そして、幼児の発育・発達段階に応じた、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、事例検討や動画学習を通して具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)を身に付ける。具体的には、テキスト、視聴覚教材(映像)を中心に行う。また、様々な運動遊びを経験し、子どもが熱中する運動遊びの支援・実践方法について検討する。

到達目標

- ・乳幼児期の子どもの運動及び運動遊びについて、その重要性を述べることができる。
- ・領域「健康」の特性及び幼児の経験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- ・安全面に留意した環境構成について述べることができる。
- ・指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- ・環境や体力・健康状態に応じて運動遊びを変化・発展させることができる。

事前事後学習

- ・授業の前に、テキスト「保育内容【健康】」の当該箇所を予習すること。
- ・課題レポートを提出することで、内容の理解を深めること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的な教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的な技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	○

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション、健康に関するアンケート	16	運動ができるとは
2	領域「健康」のねらいと内容	17	障がい児の運動指導について
3	子どもの健康をめぐる課題	18	幼児体育の指導案の書き方と作成 I
4	子どもの発達理解(身体の発育と発達)	19	幼児体育の指導案の書き方と作成 II
5	子どもの発達理解(心の育ちと健康)	20	幼児体育の指導案の書き方と作成 II
6	子どもの遊びの発達と健康	21	身体を使った遊び I:鬼遊び
7	子どもの運動遊び(伝承遊びについて)	22	身体を使った遊び II:力くらべ・ジャンケン
8	子どもの体格・運動能力の現状と課題	23	身体を使った遊び III:かけっこ・リレー
9	子どもの生活スタイル	24	用具を使った遊び I:新聞紙・段ボール
10	子どもの体格・運動能力の測定法と評価	25	用具を使った遊び II:なわ・フープ・ボール
11	子どもの安全管理と安全教育	26	環境づくりと運動あそび
12	応急処置	27	健康な生活を送るために I:事例検討
13	体育的行事	28	健康な生活を送るために II:事例検討
14	子どもの生活と運動について	29	健康な生活を送るために III:事例検討
15	幼児教育における幼児体育の意義	30	まとめ

<b>授業外学習内容とその時間</b>	前回の講義内容を配布資料を含めた上で理解し、他者に説明できるようにしておく。(目安時間:各回約2時間)		
<b>課題のフィードバック方法</b>	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート	30%	プレゼンテーション	有
小テスト	30%	スピーチ	有
発表(プレゼン・スピーチ等)	20%	ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	有
その他		その他	有

<b>テキスト</b>	「保育内容 健康」新版 民秋言・穂丸武臣編著 北大路書房
<b>参考文献・推薦図書</b>	「保育と幼児期の運動遊び」岩崎洋子編 萌文書林、「幼少年期の体育」デビットガラヒュー著 大修館書店、「幼稚園教育要領」/「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
<b>関連のある授業科目</b>	こどもと健康・保育内容総論・こどもの遊びと運動学
<b>資格等</b>	幼稚園免許二種免許・保育士資格

科目名

# こども家庭支援の心理学

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／保育士必修》

担当者

中富尚宏

実務経験

授業の概要

本講義では、生涯発達の見点から、発達のプロセスや初期経験の重要性、子どもの心の健康に関わる問題等について解説する。また、親子関係や家族関係等について、現代の社会的状況を踏まえながら理解を深める。

到達目標

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

事前事後学習

事前に授業に関連する資料を配布するので、授業前に読んでおく。授業後には授業にて配布したプリントを整理しまとめておく。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的教養の修得	
Ⅱ	保育者としての基礎的技術の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	○
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション(講義の目的と目標), 生涯発達理解の意義
2		2	乳児期の発達
3		3	幼児期の発達
4		4	学童期の発達
5		5	青年期から成人期・老年期における発達
6		6	家族・家庭の意義と機能
7		7	親子関係・家族関係の理解
8		8	子育ての経験と親としての育ち
9		9	子育てを取り巻く社会的状況
10		10	ライフコースと仕事・子育て
11		11	多様な家庭とその理解
12		12	特別な配慮を要する家庭
13		13	子どもの精神保健とその課題
14		14	子どもの生活・生育環境とその影響
15		15	講義全体のまとめ、子どもの心の健康に関わる問題

<b>授業外学習内容とその時間</b>	前回の講義内容を配布資料を含めたうえで理解し、他者に説明できるようにしておく(目安時間:各回約2時間)		
<b>課題のフィードバック方法</b>	学生の発表内容について、適宜教員から指導を行う。		
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>	<b>アクティブラーニング</b>	<b>有無</b>
定期試験		ディスカッション	有
レポート	80%	プレゼンテーション	
小テスト		スピーチ	
発表(プレゼン・スピーチ等)		ロールプレイ	
平常点・授業への貢献度	20%	教室外学習	
その他		その他	

<b>テキスト</b>	「家庭支援の理論と方法」渡辺顕一郎・金山美和子著 金子書房
<b>参考文献・推薦図書</b>	「家庭支援の保育学」武藤康子ら編著 建帛社
<b>関連のある授業科目</b>	保育の心理学, 子どもの理解と援助
<b>資格等</b>	保育士資格

カモク メイ  
科目名

カイガイ ケンシュウ  
海外研修

タンイ ジッシュウ ケイエイ フクシ ガッカ ヨウジ ホイク ガッカ ネンコウキ センタク  
《2単位(実習)／経営福祉学科・幼児保育学科1年後期／選択》

タン トウ シャ  
担当者

ケイエイフクシ ガッカ チョウ ヨウジ ホイク ガッカ チョウ  
経営福祉学科長 ・ 幼児保育学科長

実務経験

ジュギョウ ガイヨウ  
授業の概要

本学では、例年11月下旬から12月の初旬にかけて約2週間のオーストラリアへの海外研修を実施しています。この研修の主な目的は、異文化に触れながら生活(ホームステイ)や学習(英会話研修・現地の幼稚園・施設等の見学および実習)を体験することです。そのなかで、国際感覚を身につけたり、自分自身の視野を広げることもでき、学生時代の良き思い出にもなる有意義な研修となっています。  
希望者のみですが、英会話が多少苦手である方も自由に参加できます。  
授業計画(項目・内容)は、昨年度の実施状況を踏まえた内容を記載しています。詳細は後日に提示します。

トウタツ モクヒョウ  
到達目標

カイガイ セイカツ ジゼン ジュンビ リカイ フカ ケンシュウ ジッサイ マナ  
海外での生活の事前準備について理解を深め、研修においてその実際を学ぶ。

ジゼン ジョ ガクシュウ  
事前事後学習

ケンシュウサキ ジゼン シラ ケンシュウ タイケン レキシトウ マナ  
研修先について事前に調べておく。研修後は、体験・歴史等について、学んだことをまとめる。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得し、保育者として就職する	○
2	建学の精神に基づく人間教育や保育の専門教育を通して、保育者としての基礎的な教養や倫理観、ならびに保育の専門的な知識・技能を身につけている	右記の3つの学習成果は以下のⅠ～Ⅴの5つの要素から構成される
3	各種実習や保育の専門教育を通して、保育者としての実践的な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている	
4	保育者としての専門性を自覚し、社会的な常識や幅広い教養、時代にあった生活感を身につけている。	
Ⅰ	保育者としての基礎的な教養の修得	○
Ⅱ	保育者としての基礎的な技能の修得	
Ⅲ	保育及び援助の目的の理解	
Ⅳ	保育及び援助の対象の理解	
Ⅴ	保育及び援助の方法の理解	

## 授業計画(項目・内容)

カイ 回	ゼンキ 前期	カイ 回	コウキ 後期
1		1	ジゼン 事前オリエンテーション1(意義と目的等の説明)
2		2	ジゼン 事前オリエンテーション2(ホストファミリー、準備等について)
3		3	ニュウコチツツ 入国手続き、クウコウ キナイ 空港・機内におけるシドウ 指導
4		4	ケンシュウ 研修センターにおけるオリエンテーション
5		5	エイカイワ ケンシュウ ホカ 英会話研修、他
6		6	エイカイワ ケンシュウ タイケン ガクシュウ ジョウバ タイケン 英会話研修と体験学習(乗馬体験)
7		7	エイカイワ ケンシュウ タイケン ガクシュウ 英会話研修と体験学習(アクティビティー)
8		8	エイカイワ ケンシュウ タイケン ガクシュウ 英会話研修と体験学習(ハーバークルーズ)
9		9	エイカイワ ケンシュウ タイケン ガクシュウ 英会話研修と体験学習(フェアウェルランチ)
10		10	エイカイワ ケンシュウ タイケン ガクシュウ ヨウチエン シセツ ケンガク ジッシウ 英会話研修と体験学習(幼稚園・施設の見学・実習)
11		11	シナイ ケンガク ケンシュウ シドニー市内見学および研修1
12		12	シナイ ケンガク ケンシュウ シドニー市内見学および研修2
13		13	ホストファミリーとのシナイ カンコウ ケンシュウ 市内観光および研修
14		14	エイカイワ ケンシュウ シュウリョウ 英会話研修(まとめと修了式)
15		15	タイケン ホウヨク カイ サンカシャ ケンシュウ ヨウコク ハッピーウク 体験報告会(参加者による研修報告発表含む)

授業外学習内容とその時間	
課題のフィードバック方法	
<b>成績評価方法</b>	<b>評価割合</b>
定期試験	
レポート	
小テスト	
発表(プレゼン・スピーチ等)	
平常点・授業への貢献度	20%
その他(実習)	80%
	<b>アクティブラーニング</b>
	ディスカッション
	プレゼンテーション
	スピーチ
	ロールプレイ
	教室外学習
	その他
	<b>有無</b>

テキスト	随時、資料を配布
参考文献・推薦図書	随時、参考資料を紹介
関連のある授業科目	基礎英語・英語応用・英会話 I・英会話 II
資格等	なし